

THE MONTHLY REPORT

OF

SEITO JITSUGYO KIOKWAI.

NOVEMBER 1918 No. 11.

大 正 七 年 十 一 月 壹

青 島 實 業 協 會

月 報

第 十 壹 號

大正七年八月十九日第三種郵便物認可
大正七年十一月二十日發行
(每月一回二十日發行)

△本號要項▽

△統	△倫	△法	△青	△內	△主	△金	△海	△貿	△資	△協
	敦		島	外	要		運			會
	銀		雜	經	貿		及			錄
	塊			濟	易		鐵			
	相			時	品					
				概						
計	場	規	錄	報	況	融	道	易	料	事

青島港貿易大正七年ト大正六年トノ各月比較△

	輸移出品價額			輸移入品價額			輸移出入品價額合計		
	汽船	帆船	計	汽船	帆船	計	汽船	帆船	計
大正七年九月	一八九四、五九六 銀四	八〇八、八六七 銀四	二七〇、三四六 銀四	二九七、一三五 銀四	七七、三六五 銀四	三七五、九一〇 銀四	四八六、一八四 銀四	一、五七六、三三三 銀四	六、四四三、〇六六 銀四
大正六年九月	二、二六〇、二八七	七六六、二三三	三、〇四六、五二〇	四八六、〇九四	三八五、八七二	五、二五二、二八二	七、一六六、六九六	一、七二二、〇九五	八、二九八、七九一
大正七年八月	三、三七七、七九五	四、四六三、七二一	三、七八四、一六七	四、〇五三、三一九	五、五九二、二八七	四、八四六、〇六六	七、三三三、二二四	一、〇五五、五九九	八、三八八、七七三
大正六年八月	二、九〇八、四七五	四、四四三、二一〇	三、三七二、七八五	三、七六二、〇三四	四、〇三七、七七	四、一六五、七五一	六、六六二、四九九	八、六八〇、三七	七、五三八、五五六
大正七年七月	二、九九六、六三〇	六、七八〇、〇五	三、六七四、六五五	四、五九三、二一〇	六、三三四、七五	五、二〇一、七八五	七、五五五、九四〇	一、三二〇、四八〇	八、八七六、四二〇
大正六年七月	三、四七八、五三三	四、〇二二、二六	三、八八〇、八八九	四、三〇七、四四四	三、七〇四、五	四、六二四、四九九	七、七八五、九四七	七、九三六、一	八、五〇五、〇三八
大正七年自一月至六月計	二、一三六、九九一	四、五一、三〇八	二、五六二、一九九	三、〇二〇、九六三	四、四七〇、〇三三	三、四九四、七九五	五、一五〇、九五四	八、五九八、三四〇	六、〇二六、八八四
大正六年自一月至六月計	二、四五四、八四六	三、九二二、三四七	二、八三四、一九三	三、四八五、九五三	四、七八〇、〇三二	三、九六〇、三九六	五、九四四、七九八	七、九七〇、三七八	六、七三三、七六
大正七年六月	二、四六七、六三八	五、五八七、二二	三、〇二六、五九九	五、三八一、八五	五、八九〇、〇三	五、九七〇、〇七	七、七八五、八二三	一、四七、七四三	八、九三三、五五六
大正六年六月	五、五四八、九三三	四、〇三三、三三	五、九五二、四五六	三、七四三、五一	七、四九〇、六七	四、四三三、四一八	九、二五三、一八四	一、五二五、九〇	一、〇四〇、五八四
大正七年五月	二、二二〇、四九五	五、六五二、二七	二、七八五、七二三	三、三七九、二六	五、七三四、六二	三、九五二、三八八	五、五九八、四二二	一、三八六、七九	六、七三三、〇〇〇
大正六年五月	五、二二二、七八三	六、〇一六、四六	五、八二四、四九九	八、三七二、七八四	七、九六四、四四	九、一六八、二四八	一、三、五九四、五六七	一、三九八、一一〇	一、四九三、六七七
大正七年四月	三、七四九、九三三	七、四八二、三九九	四、四九四、一六	五、一九三、七〇二	八、八四三、三八	六、〇七八、〇九〇	八、九三六、二四	一、六三三、二七	一、〇五七、一五一
大正六年四月	三、六〇〇、九一四	一、〇九四、八六四	四、七六五、七七八	五、七〇〇、〇二	一、五五六、〇八七	七、二六六、〇九九	九、四〇〇、九二六	二、六〇一、九五	二、〇三三、八七七
大正七年三月	三、三三九、三六八	七、五四八、七一	四、〇八四、三三九	四、五二六、四九六	七、〇九八、三三	五、二二六、三八	七、八五五、八六四	一、四四四、七〇三	九、三〇〇、五五七
大正六年三月	四、三五六、八〇	一、〇〇三、三六六	五、三三八、九四六	六、二六一、九四四	六、六〇七、四四	六、九三二、六八八	一、〇五九、六二四	一、六四四、〇〇	一、二二六、六四四
大正七年二月	四、五四九、五〇七	五、五五二、〇二五	五、一〇四、七二三	五、〇四九、九三六	五、八六六、九五	五、六三二、六三二	九、五九五、四四三	一、四一、九〇〇	一、〇七三、四四三
大正六年二月	三、五三四、四六〇	五、五三三、三七九	三、〇八七、八九	五、〇四三、六三三	二、五四七、三二	五、三二八、九四四	七、五九八、七三三	八、〇八一、〇	八、四〇六、八三三
大正七年一月	五、〇五七、〇六一	一、〇六九、〇五五	六、一二六、一六	六、七八七、二八	一、〇〇三、六三三	七、七四二、五二	一、二七五、七七九	二、〇七二、六八八	一、三八八、八四七
大正六年一月	三、二二六、〇七六	一、三五六、六九	三、三七二、七四五	五、七三三、五九八	二、〇〇九、三三八	五、九四四、五五	八、九三六、七四	三、六六、七	九、二七六、八二

▽青島實業協會月報 第拾壹號 目次△

協會錄事

□十一月例會.....一

□吉田領事招待會.....二

□處務要件.....四

□輸出油類品質條件に關し米國より回答の件.....五

資料

□山東の豚毛.....八

□四川の豚毛.....一三

貿易

□青島貿易近況.....一五

□主要貨物情勢.....一六

□青島と日本内地.....一七

鐵道及海運

□青島最近船舶出入.....二二

□臨時船出入情況.....二二

□青島と朝鮮航路.....二三

□傭船運賃軟調.....二三

□内地近海運輸近況.....二三

□市内三驛發著主要貨物.....二四

□濟南發著貨物.....二四

□津浦線濟南驛發著貨物.....二五

□青島港出入汽船細別表.....二六

金融

□十月中銀塊並爲替相場.....三一

主要貿易品概況

□ 燐寸 □ 砂糖 □ 米 □ 木炭 □ 紙 □ 煙草 □ 木材 □ 綿絲布 □ 石油 □ 落花生 □ 落花生油 □ 牛肉
□ コークス □ 桐材 □ 鹽 □ 牛皮 □ 石炭 □ 麥稈眞田 □ 小麥

内外經濟時報

□ 米國に於ける戰後經濟施設に就て 三七

□ 對上海取引所反對運動 三八

□ 關東州關稅改正意見 三八

□ 滿鐵埠頭經營方針 三九

□ 高粱價返還訴訟 四〇

□ 滿蒙毛織著手 四〇

□ 落花生と花生油 四〇

□ 朝鮮製鹽高 四一

□ 上海九月中商況 四一

青島雜錄

□ 鐵道倉庫業規則實施 □ 大星卵粉公司賣出期 □ 李村の鹽豚移出有望 □ 山東省日支通信聯絡 □ 山東省の

會社及資本 □ 山東製軸公司開業期 □ 山東葉煙草と買付高 □ 青島浦鹽間海運關係 □ 人事

法規

□ 青島鹽業規則 四四

倫敦銀塊相場

□ 十月中表示 五〇

統計

□ 青島輸出入貿易表 □ 青島三驛發著貨物主要品 □ 埠頭陸揚船積貨物品名表 □ 出入汽船積卸貨物數量

□ 出入汽船仕出仕向地別 □ 出入汽船旅客數 □ 市内三驛鐵道旅客 □ 青島屠獸場屠殺數

青島實業協會月報 第拾壹號

協會錄事

十一月例会

十一月例會は昨日日曜日に當りしたため之を繰下げ翌十一日市民會内に開會せり、出席會員二十四名左の如し

△出席會員名（順序不定）

岩城商會支店 伊藤忠合名會社支店

原田汽船會社支店 日本郵船會社出張事務所

日本綿花出張所 東和公司支店

東亞煙草販賣所 朝鮮銀行支店

橫濱正金銀行出張所 大連汽船會社出張所

内外綿會社青島工場 吉澤洋行

茂木合名會社出張所 山田出張所

神戸棧橋派出所 江商株式會社支店

安部幸商店出張所 湯淺貿易出張所

南滿鐵埠出張所 南滿鐵、鑛、販出張所

峯村洋行 中村組支店

福昌公司出張所 青島製粉會社支店

（備考、最初出席通告二十九名、後刻急用缺席通告五名）
著席後新入會員新利洋行を紹介す（此日代表者急用缺席）終て例に依り質素なる晚餐を共にし歡談數刻親睦を重ね、食後少時休憩、午後七時月番幹事より開議を宣し直に書記長の十月中會務諸般の報告を詳細に亘り聴取し、次て幹事より左記事項を報告

せり

○小麥當業者集會の件

○小麥委員選定の件

○吉田領事招待宴會の件

○海關規則研究會の件

○中野署長宛稟申の件

○本郷大將發程協會代表見送の件

○芳澤代理公使宛發信の件

○小麥委員會の件

○電報誤字に關し當局へ申告の件

○吉田領事宛打電の件

右報告後

○常任幹事任期滿了に關する件

に就ては月番幹事より太田保一郎氏の常任幹事として多大の心勞ありしを感謝する旨述べ太田氏之に對して重職在任中微力何等致す所なかりしは慚愧に堪へずとて謙遜し、次て月番幹事は本件に關し今後如何にすべきや即ち從來通り常任幹事を置くべきや又は更に役員制度を改革すべきや本件は協會に取りて頗る重大問題なるを以て各員充分御協議ありたしと述べ、之より討議に入り

（一）常任幹事も月番幹事の如く任期毎に交替するの希望

（二）此際役員制度を改革し會頭、副會頭、評議員制に一變するの機會に到達したるものゝ如し、依て此點に就て考慮しては如何

（三）月番幹事には在任期僅々一箇月にして會務處理上責務の回避なきや、寧ろ之を廢止しては如何

(四) 月番幹事は二名の必要なし一名に定め之に常任幹事を置けば事足るものゝ如しとの説に對しては月番幹事は依然二名を必要とするの反對説出づ

(五) 制度を改革し會頭一名幹事二名としては如何其他希望を述ぶるあり提議するありたるも自説を固守するものはなく審議數刻に亘りたる後ち、月番幹事は全説を綜合し

役員制度を改正するや否やを慎重研究すること
に在りと認め直に之を採決したるに多數の賛成あり即ち先づ委員五名を選び之に附託して本件を審議することに決定す而して現常任幹事は次回(十二月十日迄)任期を延長することも決定せられたる後ち委員五名の選舉に入る

投票總數二十三票(一名早退)

一票五名連記 無記名投票

- 二〇點 峯村正三君 (峯村洋行)
 - 一六點 原辰治君 (中村組)
 - 一三點 近澤武男君 (日本郵船)
 - 一二點 小林乃君 (湯淺貿易)
 - 一〇點 淵田太郎君 (伊藤洋行)
- (以上當選、以下略す)

即ち以上五名の當選者と常任幹事、月番幹事(三井物産、大連汽船)を加へ都合八名は役員制度改革の可否如何を研究するため

の委員として其の任に當ることゝなる、次で

○協會用電話新設建議案

(湯淺貿易、小林乃氏提出)
を附議することゝなり、書記長原文を朗讀す、小林氏起て新設の理由に就ては別に詳説するの必要なかるべし兎に角緊急事項

と認むと述べ二三の所論あり、採決の結果本案を採用し購入法に就ては協會基金より之を支出することに決定、次で

○梶野洋行入會の件

に移り、書記長より右入會手續上紹介者を披露すとて紹介者伊藤洋行、江商株式會社青島支店を朗讀す、本件は異議なく承認右數項逐次議事を終り、最後に月番幹事より此の機會に於て埠頭苦力に關し神戸棧橋の河南君より一言し度しとのことなりと通告す、河南君超て

コソ協會の議事にあらざるも近時埠頭に於ける苦力不足難に就て協會員中に物議あるものゝ如く依て此の機會に於て當事者として簡單に之が理由を陳述すべしとて苦力不足の原因は一、船舶入港數の激増(一時に十二隻の入港繁留を見たることあり)二、流行性感冒罹病者の増加、三賃金の暴騰、四、農作物の豐年と家計の餘裕を生じたること、五、苦力使用が一般的に多方面に亘り來りたること(小麥、石炭等の勢力需要増加)等を主因とし之が圓滑供給法としては常に畫策を怠らず近く苦力收容所を新設し一千五百人位を收容(埠頭現在使用苦力平均七八百人)當分多少の損失を覺悟し勢力供給上の便益を計る所存なれば本件に關し充分御諒察あらんことを乞ふ云々

と陳述し、次に月番幹事より次回月番幹事

三井物産株式會社青島出張所

大連汽船株式會社青島出張所

を披露し午後九時散會せり

吉田領事招待宴會

吉田領事は今回の山東產小麥及麥粉の海外輸出解禁に就き多大

の心勞あり其後來青の場合は機會を見て一夕慰勞感謝の宴を開くこと本月四日回章(權量氏送別宴會當時の回章)を以て豫め各員の賛同を経たるあり斯て本月二十七日領事來青會合の機會生じたるを以て直に準備を整へ同日午後五時三浦屋に於て開宴せり當日の出席者左の如し

△賓客

吉田 領事

△主人側(順序不定)

橫濱正金銀行出張所 三井物產會社出張所

峰 村 洋 行 湯淺貿易會社出張所

吉 澤 洋 行 大日本麥酒會社出張所

中 村 組 支 店 山東興業株式會社

日本綿花會社出張所 朝鮮銀行支店

鈴木商店出張所 日本郵船會社出張事務所

神戸棧橋會社派出所 泰利商會

内外綿會社青島工場 東和公司支店

福昌公司出張所 東洋鹽業會社支店

山 田 出 張 所 岩城商會支店

青島製粉會社支店 伊藤忠青島支店

大連汽船會社出張所 大倉商事出張所

滿鐵埠頭事務所出張所 職員(吉見書記長)

開宴に先ち小麥問題に關して親しく領事と懇談するため過日(十月二十六日)關係業者集會席上選定されたる小麥委員及常任月番幹事は別室に於て領事に會見せり(委員の出席は三井、鈴木、湯淺、東和、峰村、正金、日本綿花にして青島製粉は特に製粉輸出に關し原料と護照關係及海關制度に就て参考のため出

席領事に陳述せり)

此の會見懇談は約四十分にして要領を摘記せば左の如し

一、一石三百十斤の解釋を以て護照の發給を受けたる分使用に就ては既に領事より北京公使館を通じ支那側に交渉中なるが此際實業協會よりも當局を通じ北京當局に具申するを可とす

一、一石三百十斤の解釋を以て護照を受くべく商取引を行ひたる分相當の額に上り居るを以て此際之が善後處分に就て顧慮せられたしとの一委員の説に就ては領事は本件は此際問題とせざるを可とすとの意見且又委員中にも略ぼ同様の意見を有するものあり結局撤回せり

一、護照發給所に就ては既に北京總稅務司より當地海關宛膠州海關内に設置可然旨の通牒發せられたることと信するを以て日ならず當地海關内に護照發給所の開設あることと思はるること

一、護照料金は軍票を以て納入する件委員中より希望出たるも支那側の所定北洋銀に據る外道なかるべしとのこと

一、小麥輸出に就ては刻下多少の不利不便あらんも將來のため成るべく多量輸出する様努力せられんことを希望す蓋し今回輸出解禁に就ては十萬噸の數量限定しあるも支那農民其他に惡影響なくば將來永續的に益々數量の増大を見んとも限らず兎に角此際奮て多量の輸出を致さることは將來のため大に好都合ならんとの領事の談

即ち領事と委員との會見は大要以上の如く其他此の機會に於て充分懇談を重ねる所あり、終て直に宴席に移り配膳席定るや常任幹事太田保一郎氏は今回小麥及麥粉の海外輸出解禁に就ては

領事の盡力頗る大なり感謝に堪ず從來青島貿易は二百七十三哩の山東鐵道を通じ僅に冬季出貨を以て市況引立ち夏季は殆んど爲すあるなく海水浴に無聊を遣るの實情に在りしが今回當局の御盡力に依り小麥の輸出を可能ならしめ閑散なる夏季貿易に一新活力を添へ來りたるは如何にも商人として欣快の次第なり本夕は領事御來青を機とし聊か感謝の微意を表せんため此の宴を開きたるに領事には御多用中に不拘御光臨を忝ふし重ねて感謝に堪はずとの意味にて挨拶を述べ、吉田領事は「思ひ懸けなく斯かる盛宴に招かれたるは頗る感謝に堪はずとは云へ心中亦聊か別感あり元來小麥輸出解禁に就ては予は單に事務上御取次を致せしのみにて本件功勞者は自から別に人あり」と謙遜し「然れども兎に角解禁を見たる以上は成る可く之を永久に存繼せしむるの必要あり之には出來得る丈け多量の輸出を致すを以て得策とするものなり故に此の點に就て充分御奮發あらんことを希望す」とて誠意を披瀝さる、斯くて紅裙隊の出勤酒席興益々進み屢々各方面に笑聲上り歡談數刻近來稀なる盛況を盡して散會したるは午後九時過ぎなりき

處務要件

◎會議

- 一、十月十二日協會員中小麥關係者の集會を三井物產出張所樓上に開く、中野署長、稻葉事務官臨席
- 二、十月二十六日前同様協會員中の小麥關係者集會を市民會内に開き今後小麥、麥粉問題に關する一切の研究接衝を委するため小麥委員の選定を行ふ、三井物產、鈴木商店、湯淺貿易、東和公司、峯村洋行の五名高點順に據り當選之に

常任幹事、月番幹事を加ふることに決定其他懸案を凝議して散會

- 三、十月三十日海關規則研究會の開議あり本件に就き協會委員の氏名は飯塚重五郎氏、永井熙八氏、石橋藤次郎氏、近澤武男氏、川畑竹馬氏、金子慶治氏、芥川光藏氏及常任幹事、月番幹事なり

- 四、十一月四日協會小麥委員は三井物產樓上に會合護照發給所に關し凝議せり

◎官廳宛發信

- 一、十一月一日中野青島民政署長宛小麥及麥粉の件に就き稟申せり

- 二、十一月二日在北京芳澤代理公使宛一石三百十斤解釋銀五十錢を以て發給せられたる護照使用の件に就き上申せり

- 三、十一月七日在濟南吉田領事宛小麥護照の件に就き電照翌八日返電に接す

◎來訪者

十月中の來訪者は六十三名にして内重なるものは▲滯青中なりし權重氏は北京歸任に就き挨拶のため▲上海長瀨洋行の小倉壽三郎氏は經濟視察のため▲仁川商業會議所書記長岡本保誠氏は經濟調査のため▲太平洋海運の吉間源吉氏は大連シャトル直航海運開始に付き當地貨物關係調査のため▲大阪曹達株式會社主任矢野寛氏は經濟調査のため▲上海伊藤忠支店の三浦哲三氏は油類調査のため▲安東銀行奉天支店の弘岡半次郎氏は金融調査のため▲朝鮮總督府遞信事務官補成田勝虎氏は新航路調査のため▲青島野戰郵便局長中川傳治氏は宴會の件

に就き來訪せられたり

◎協會代表者の動靜

東亞煙草販賣所の淺見豐吉氏は今回上海に轉任十月二十六日發程○鈴木商店の金子慶治氏は南清及北清經濟視察出張歸青後病氣引籠中○大日本麥酒會社の永井熙八氏及大倉商事會社の石橋藤次郎氏は十一月一日西京丸にて東上○青島製粉會社の百溪深氏は十一月六日の臺北丸にて東上○三井物産の飯塚重五郎氏は十一日團琢磨氏一行と共に沿線に出張せり

◎調査回答

一、張店實業組合より小麥輸出諸掛費用の件に就き調査依頼あり回答

二、大阪藥產株式會社より當地に於ける藥種商及雜貨商に關し調査依頼あり回答

三、伊勢山野岩三郎商店より青物問屋及海產物商に關し照會あり回答

◎文書取扱件數

△發送件數百八十三件 △受付件數百六十一件

◎雜錄

一、十一月二日青島野戰郵便局長中川傳次氏より日支通信聯絡達成に就き臨風閣に宴會あり協會より常任幹事、月番幹事及吉見書記長招待出席せり

二、十月三十一日北京安著の權量氏より在青中の厚意を謝する旨來書あり

三、十月四日市民會内に於て開催のアワー、デイに就き多大の援助を感謝する旨十一月六日該委員より來書

四、小包課税の件は十一月十三日より實施の旨通達ありたり

◎附屬運動部彙報

一、十月三日旭町グラウンドに於て秋季運動大會を開催せり
二、十月三十一日協會テニスコートに於て鶴田氏賞盃競技及岸波氏送別テニス會を開く

三、十一月十日協會テニスコートに於て三井物産の指吸氏送別テニス會開催

四、附屬運動部現在員(十一月十三日)は名譽會員三十五名、特別會員三名、通常會員四十二名なり

五、附屬運動部現任役員は運動部長飯塚重五郎氏(三井物産)幹事横森喜長氏(スタンダード石油會社)松本文三郎氏(大連汽船)西岡勝三郎氏(日本郵船)澄川友敬氏(三井物産)藤谷平藏氏(橫濱正金銀行)なり

輸出油類品質條件に關し

米國より回答の件

米國紐育に於ける外國油類品質條件決議に對し當地に在ては當協會及青島重要物產輸出組合の連名を以て該委員宛抗議書を發送せること本紙第六號既報の如くなるが八月二十四日附左記文書米國より到達せり而して當地米國人ベック氏宛にも別紙文書本國より到達の趣きに付左に參考のため全文を掲記すべし

August 24, 1918.

Tsingtau Business Men's Association,

Tsingtau.

Dear Sirs:—

I wish to acknowledge receipt of your favor of the 30th of May, which came to my attention through the courtesy of Mitsui

& Company, Limited, 65 Broadway, New York City, relating to the rules and regulations, which were established by the Foreign Oil Rules Committee, representing the principal refiners and lars substitute manufacturers of this country, and which regulations were later adopted by The Inter-State Cotton Seed Crushers Association of this country, which rules were prepared after careful study of the problem by the principal buyers and users of the oils, and in cooperation with the leading chemists, and the grades were provided with due regard to past experience, and with the past in view, to make the requirements extremely liberal. I believe that it is generally recognized by the trade in this country that the rules outlined are quite broad and liberal.

The writer feels that as soon as trading is underway under these rules, that their reasonableness will be apparent to the shippers and exporters from your markets and that the result must necessarily work out to the advantage of your markets in the long run, as the buyer contracting under these rules will feel that he is protected against being required to receive very poor quality oils, but on the other hand, can depend upon such a quality as will permit of using them for the purpose for which they are purchased, which necessarily will be reflected in the market value of the oils eventually.

I did, however, call together the Committee who prepared the rules and presented to them your letter, as well as others received from the Far East, all of which were considered and discussed with the representatives of Mitsui & Company, Ltd.,

who were present, resulting in expressions from a number of those on the Committee present, indicating that they feel the rules established were fair. However, all of these communications from the Far East are being forwarded to J. H. DuBoise, Chairman of the War Service Committee at Memphis, Tenn., as his Committee was appointed as controlling, commencing with the new season, unless he should see fit to select another Foreign Oil Rules Committee. I feel that experience will demonstrate that these rules will work out satisfactorily to both the buyer and seller, because of their liberal provisions, notwithstanding the many difficulties which surround the procurement of the oil in your country.

Assuring you of my appreciation of your courteous letter on the subject, I am.

Yours very truly,

Chairman.

September 18, 1918.

Willys R. Peck, Esquire,
American Consul,
Tsingtau, China.

Sir:

The Department refers to your despatch No. 202, dated June 21, enclosing a copy of a protest by the oil exporters of Tsingtau against certain rules and regulations governing the grading of imported oil, supposed to have been adopted on January 29,

1918, by an organization known as the "Foreign Oil Committee" at New York.

Upon investigation, through the New York Agent of the Bureau of Foreign and Domestic Commerce, the Department has ascertained that the regulations in question were adopted by the Committee on oils, waxes, and fats of the New York Produce Exchange and apply merely to business among members of the Exchange.

There is enclosed for your fuller information in this regard a copy of the Committee's "Rules and Regulations" as well as of a report submitted by the Bureau's New York representative under date of September 4th, The Bureau's further advices in this connection will be forwarded to you immediately upon their receipt by the Department.

I am, Sir,

Your obedient servant,

For the Secretary of State :

Enclosure :

from Chamber of Commerce,

Dated August 31, 1918.

August 31, 1918.

Bureau of Foreign and Domestic Commerce,

Department of Commerce,

Washington, D. C.

Re : Protest of oil exporters at Tsingtau against

certain regulations for grading of imported oil.

Please refer to your letter of August 22, with which was enclosed copy of despatch, file No. 202, from the American Consul at Tsingtau, China, together with a copy of a communication addressed by the Tsingtau Oil Traders Association to the Foreign Oil Committee of the United States of America.

The Foreign Oil Committee referred to is the committee on oils, waxes and fats of the New York Produce Exchange, and the rules and regulations in question, a copy of which is enclosed, were promulgated by this committee and apply only so far as business among members of this Exchange is concerned. Apparently, the Tsingtau Oil Traders Association have misunderstood the situation, believing that these regulations apply on all oil imported into the United States.

I have called on Mr. L. B. Howe, Secretary of the Produce Exchange, who tells me that their regulations were adopted after a careful study by the committee in question, whose recommendations were approved by the Board of Directors. He said, however, that he would be glad to receive the communication from the Tsingtau Oil Traders Association and to bring it to the attention of the committee for their consideration, I have sent him a copy of the communication referred to and shall be glad to make a further report as soon as I hear from Mr. Howe. In the meantime, I am retaining the correspondence enclosed with your letter.

For District Office Manager.

資 料

山東の豚毛

(一) 緒 言

支那人は豚肉を食すること多きを以て到る處豚毛を産し山東の如きも一箇年大約四十萬斤(四千擔)の産額あり而して歐米各國は勿論我國の如き近年刷子の製造漸次盛となり之が原料たる豚毛の需要益々増加し隨て多額の輸入を仰ぎつゝあり左に山東豚毛につき其梗概を記さんに

(二) 産 地

省内を通じ皆豚肉を食するを以て豚毛は到る處に産す特に產地として顯はるゝは濰縣、泰安、萊蕪、沂州、沙河、平度、濟南金家口、索鎮の各地とす

(三) 種類、品質及用途

豚の種類は普通白黒の二種にして支那豚は多く黒色種に屬す山東省の如きも膠州、即墨地方に於て稀に白色種を見ることあれども其他の地方に於ては殆んど黒色種のみなり隨て山東の豚毛は皆黒色毛とす而して單に豚毛と稱するは豚の全身より採りたる毛の總稱にして更に之を大別して二とす即ち其の背部及背側に生ずる長くして強硬なる毛を猪鬃と稱し腹及脚部に生ずる短かき柔軟なる毛を亂毛と稱す刷子の原料として輸出せらるゝは凡て猪鬃にして亂毛は一名春肥と稱し民家に於て作物肥料となし又は繩の製作に用ひられ輸出せらるゝものなし以下主として猪鬃に就て説明せんとす

猪鬃は之を清洗し木櫛を以て毛を梳き整齊したる上其長さに從つて揃ふるものにして普通最短二吋とし之れを札子(チャウズ)と稱す二吋以上は之れを戸(ホウ)と稱し各寸別は二分五厘上りにして六吋に至つて止む但し山東の猪鬃には二吋二分五厘のもの及五吋七分五厘のものは作製せられず今長短により其種類を區別せば左の如し

二吋、二吋五分、二吋七分五厘、三吋、三吋二分五厘、三吋五分、三吋七分五厘、四吋、四吋二分五厘、四吋五分、四吋七分五厘、五吋、五吋二分五厘、五吋五分、六吋

計十五種

品質の鑑別は先づ整齊法の如何を検し然る後變毛、死毛等雜毛少なきを選ぶ可し其良否は普通左の標準により之れを定む

一長短 二細太 三光澤 四剛柔 五不純物の多少

即ち長くして太く光澤を有し(死毛は光澤なし)剛健にして塵埃汚垢等の不純物なきを上等品とす

(四) 産額及集散狀況

豚毛を精選し其長短を整齊するものを作坊と稱す作坊は普通賣買の業を兼ねるものにして山東省に於ては唯濰縣の西北約二十華里(邦里の三里)の邵庄附近に存在するのみなるを以て山東各地の豚毛は勢ひ邵庄に集まり該地作坊によりて精選せられつゝあり之れ從來よりの慣習にして邵庄作坊の歴史を究むるに其起源は今より二十年前即ち光緒二十年の頃にして最初沙河商人の手によりて經營せられたるものなり即ち彼等は以前より外商と麥稈眞田を取引せる關係上外人と接觸するの機會多く自然貿易品に留意したる結果豚毛の外人に歡迎せらるゝを知るや之れが取引をなさんと企て先づ沙河に近き濰縣邵庄地方が豚毛の產地

なるを以て該地に作坊を設け附近の婦女子を使役して豚毛の精選をなさしめ麥稈眞田と共に芝罘に輸送し外商と取引をなしたり之れ卻庄作坊の濫觴にして其後引續き芝罘に輸出せしが青島の開港と共に漸次青島に吸收せられ同時に沙河商人は作坊を離縣商人に譲り爾來専ら濰縣商人によりて經營せらるゝことゝなれり而して光緒三十年の頃より全然芝罘關係を離れ青島及其一部は天津に移出せらるゝに至れり

前述の如く卻庄の作坊は二十年來の歴史を有するも其後大なる發達を見ず且つ資本の如きも多くは錢鋪より一割二、三分の高利を以て借り受け營業を爲しつゝあり作坊は卻庄を中心とし附近杜家庄龐家庄等に散在し其數約二十軒あり一軒にて一箇年の取扱額小は八十箱より大は五百箱に至る（一箇は八十二斤半入れなり後說荷造りの項參照）而して其取扱ひの最も大なるは丁守訓、謙豫恒の二店とす精選法は木櫛を以て豚毛を梳り汚垢を除き其短かきを捨て長きを揃へ各々前記の寸法に區別したる後之れを圓銀大の把束となし麻絲にて根元を細したる後二束毎に紙包みとなし紙面に寸法を記すものとす此作業たるや婦女子に最も適當なるを以て一軒必ず四、五十名以上の女工を使用す女工の熟練せるものに在りて一日二斤の精選を爲すと云ふ精選賃は普通銀十錢とす

前記の如く山東に於ける作坊は濰縣、卻庄地方のみなるを以て該地方に於ける猪鬃の産額は即ち山東全省の産額にして其下等品の幾分が僅かに支那人間に於て洗濯用の刷子を製するのみにして其大部分は輸（移）出せらるるを以て輸（移）出額は直ちに其産額と見るも大數に於て誤りなきものゝ如し即ち千九百十三年（大正三年）に於ける青島よりの輸出額は三千六百七十五擔、又

天津への移出額は三百餘擔なるを以て之れより推測して山東に於ける猪鬃の年産額は大約四千擔と見るは蓋し至當の見解たらんか

次に集散狀態に就て述べんに豚毛は各地に産するものなるを以て作坊は各地に店員を派して之れが買ひ入れに従事するものにして多くは一定の得意を有し先契約なりとす代金仕拂は主として銅貨とす然れども各地に銅貨を携行するは不便多きを以て皆銀兩を携へ以て仕拂を爲すの習慣なり豚毛は豚を屠殺したる後其體軀に熱湯を注ぎ鐵篋を以て皮膚より掻き收むるものにして猪鬃及亂毛を混じり塵埃を含むこと多きものありて其品質一様ならず從て價格も高低の差甚だしく猪鬃を含むこと多きものは一斤銀二圓位にして漸次下りて亂毛のみのは最低銀二十錢位のものあり平均一斤銀一圓二三十錢とす買入人は此等の豚毛を買ひ取りたる後麻袋又は布袋に容れ推車、馬背等によりて作坊に運搬するものにして一袋の容量は普通六十斤内外なり豚毛は四季を通じて出荷するものなれども普通十月頃より翌年二三月頃迄を出廻りの最も盛なる時期とす之れ此期は魚類の漁獲少きと恰も陰曆正月の頃に當るを以て支那人の豚肉を食用とすること最も多き季節なるを以てなり斯くの如く山東各地より買出して卻庄作坊に運ばれたる豚毛は精選せられたる時亂毛は繩の原料及肥料として農家に賣却せられ猪鬃は輸出品として青島及天津に輸送せらるゝものとす

（五）荷造及價格

猪鬃は作坊に於て精選せられ長短により之れを區別し二束毎に紙包みとなしたる後同一寸法のものゝみを一と纏めとし木箱に装入す木箱は縦二尺横一尺五寸深さ一尺餘の白木製箱にして一

箱の容量は普通八十二斤半(英斤にて約百十封度)とす包装し終れば蓋を釘付けとなし其上部を麻繩(苧麻繩)にて縦横に縛し外面に商號、毛の寸法量目等必要なる文字を押捺す木箱の重量は九斤より十三斤迄とす猪鬃の賣買は普通組合によりて行はるゝものなれども需用者の希望によりては特定寸法のものゝみを取引することあり未だに作坊に於て猪鬃賣買に使用せらるゝ三種の組合せを説明すべし

(イ) 老票頭、老票頭は一組八十箱より成るものにして其組合せ左の如し

二時	十四箱	三時五分	五箱
四時七分五厘	一箱	四時五分	二箱
二時五分	二十三箱	三時七分五厘	四箱
二時七分五厘	七箱	五時	一箱
四時	三箱	五時二分五厘	一箱
三時	八箱	四時二分五厘	二箱
五時五分	一箱	三時二分五厘	七箱
六時	一箱		

計 八十箱

(ロ) 第一新票頭、第一新票頭は一組六十六箱より成り老票頭の組合せより二時の十四箱を減じたるものなり

(ハ) 第二新票頭、第二新票頭は一組五十五箱より成るものにして其組合せ左の如し

二時五分	二箱	四時	五箱
二時七分五厘	三箱	四時二分五厘	五箱
三時	五箱	四時五分	五箱
三時二分五厘	五箱	四時七分五厘	五箱

三時五分	五箱	五時	五箱
三時七分五厘	五箱	五時二分五厘	三箱
五時五分	二箱		
計	五十五箱		

老票頭 百斤 百五兩

第一新票頭 同 百二十五兩

第二新票頭 同 百九十五兩

右は組合せものに對する相場にして買主の希望が一定の指定寸法のものなるときは毎百斤普通左の價格によりて取引せられつゝあり

二時	四十兩	三時	百五兩
二時五分	六十兩	三時二分五厘	百三十兩
二時七分五厘	八十兩	三時五分	百七十兩
四時	二百五十兩	三時七分五厘	二百十兩
四時二分五厘	二百七十兩	五時	三百五十兩
四時五分	二百九十兩	五時二分五厘	三百八十兩
四時七分五厘	三百二十五兩	五時五分	四百兩
六時	四百五十兩		

(六) 輸(移)出の景況

前項集散狀況に於て述べたる如く豚毛の出廻りは主として十月頃より翌年二、三月の候にして之れが精選も此期間に於て行はるゝこと最も多きを以て猪鬃の輸(移)出は一箇年を通じて行はるゝものなれども特に三、四月の候を最も盛なりとす而して山

東の猪鬃は以前に在りては芝罘より輸出せられたるものなれども青島の開港と共に全然芝罘の關係を離れ其大部分は青島より輸出せられ一部は天津に移出せらるゝことゝなれり今自千九百四年至千九百十三年(自明治三十七年至大正二年)既往十箇年間に於ける青島よりの輸出數を示せば左の如し

年次	數量(單位擔)	年次	數量(單位擔)
一、九〇四	八八七	一、九〇九	一、七四三
一、九〇五	八五二	一、九一〇	二、二四二
一、九〇六	一、一九六	一、九一一	二、九三二
一、九〇七	一、二三九	一、九一二	二、三三二
一、九〇八	一、五〇八	一、九一三	三、六七五

右の表によると青島よりの輸出額は年々増加の傾向を示しつゝあるは全く青島に於ける外國商店が山東の猪鬃に漸次注目し來りたる結果にして從て天津向は次第に減少し千九百十三年(日獨戰前)に於ける山東猪鬃の輸移出額は約四千擔(四十萬斤)にして青島に於ける輸出は皆外國人殊に獨逸人によりして取扱はれたるものなり

(七) 取引状態

青島に於ける外國商は買辦或は店員を作坊に派し直接生産者と現物により賣買の契約をなすことあれども斯かる直接の買付は極めて稀れにして多くは青島に於ける支那商人の仲介によりて取引せらるゝものなり是等仲介業者は多く自ら資本を投じて取引をなすことなし只だ能く外商の事情に通ずるを以て作坊か直接外人と取引を爲すよりも却て便利多きを以て自然仲買業者の手を経るの慣習を生ずるに至れり作坊は最初見本を示して仲買人に販賣の斡旋を託するものにして仲買人は更に外商の買辦は

交渉し買辦は店主の意を受けて始めて賣買契約は成立す此際外商は手附金として代金の五分を前渡しするを常とす作坊にては注文品を取り揃へ青島に至り仲買人の手を経て外商に引渡すものにして代金は現品受取と同時に仕拂ふものとす手數料は普通仲買人二分、買辦二分にして共に賣手持ちとす即ち買手たる外商より千兩の支拂に對し買辦は二十兩を差引たる九百八十兩を仲買人に渡し仲買人は更に二十兩を差引作坊に渡すものとす故に一千兩の商ひに對し作坊の收入は九百六十兩の勘定なり外商は商品を受取りたる後多くは箱中の紙包を自己の商標又は商號記入の紙に改裝し虫害を防ぐ爲め箱内に樟腦を容れ箱の外部を更に菰包となし表面に商標、商號、量目等必要なる文字を記したる上輸出するものとす

(八) 日獨戰後青島の輸出状態

從來青島の猪鬃輸出は多く獨逸商人によりて經營せられしが日獨戰爭の結果此等の獨逸商店は皆閉店し又振興、立興等の佛商も其取扱ひを中止し僅かに英商怡和洋行のみ之れが輸出を繼續しつゝある有様なり斯くの如く輸出商の減少したる爲め作坊に於ても青島と取引するに由なく已むを得ず從來の商取引を一擲し濟南經由天津に移出する方法を採るに至れり即ち作坊にては現品を濟南に送り同地に於て外商の買辦と取引きを爲し外商は之れを天津に送り輸出するの狀態にして殊に昨年來濟南城内に作坊を設け専ら山東西部地方の豚毛を蒐集して今日迄五百箱の猪鬃を生産し之を天津に移出したりと斯かる有様なるを以て戰後青島の猪鬃貿易は萎靡として振はず之れを戰前に比すれば其輸出額二分の一弱に低下したり今參考の爲め千九百十五年(大正四年)に於ける青島港猪鬃の輸出額を月別に表示せば左の

四川省の豚毛

◎種類及生産額 四川省輸出の豚毛は四川、雲南、貴州の三省を包括し普通四川産と總稱し其生産額は從來略々一定し居りしが昨年同地方兵亂以來軍隊のため種豚を亂殺せられたる結果目下平時より一割方減少を示し一先省内戰爭熄止するも暫くの間は現狀態を持続するならんと觀測せらる今最近五年間の種類別及生産額を示せば左の如し

年次	種類別
一九一三年	白毛 一、四二一 黒毛 一八、四五七
一九一四年	一、四四二 二〇、〇九五
一九一五年	一、五九六 一九、七四九
一九一六年	一、三二一 一四、六七七
一九一七年	一、〇五五 一四、七九一
計	六、八三五 八七、七六九

備考 右の内白毛は殆ど全部日本へ輸出せられ黒毛は同地に於ける刷子製造材料として僅に毎年五百斤乃至千斤を留用する外他は悉く歐米へ輸出せらるゝものなり

◎輸出趨勢及將來の見込 四川省産豚毛は歐洲戰亂開始以來頗に其需要を増加し今や供給不足の盛況を呈しつゝあり輸出額は第一革命當時即ち千九百十二年に於て一時減退を示せる外爾來比較的順調に經過し來りしが昨年支那動亂發生以來再び原產地收毛の不足を告げ延て輸出額の減退を示せり又輸出先に就て之を見るに多少變化せるものあり即ち白毛は從來専ら日本にのみ輸出せられたるものなるに最近外國商人の手により少量宛英國

輸出を試みらるゝあり此情勢にて進展するものとせば實に本邦刷毛業者に對する一大打撃たるを免れずと雖も加工賃金の低廉と仕上成績の良好ならざる限り此試みは不成功に終るべしと觀測せらる黒毛に至りては從來殆ど全部歐洲へ輸出せられ居りたるも戰亂後船腹の不足及航路の危險と歐洲各洗毛工場の休業との結果曾ては歐洲より供給を受け來りたる米國は今や直接に四川省より供給を仰ぐに至れるが爲め昨今の趨勢より推せば輸出額の十分の六は歐洲(重に英國)其四は米國へ向けらるゝものゝ如し、輸出狀態は動亂以前にありては適時汽船の航行するあり白毛の如き高價なるものは汽船積として輸送上何等支障なかりしが本年に入り峡中南北兩軍の對峙を見加ふるに沿岸一帯土匪の横行するありて右汽船の航行は全然停止せられ又民船航行に至りては土匪猖獗のため前例なき多額の護送費を徴收せられ峡中戰爭地帯に於ては人夫として船頭を徴發せられ船を抑留せられて數十日を空しく峡中に過さざるべからざる等幾多の障礙續生し一時四川省唯一の通商公道は殆ど閉塞せられたる觀あり爲に大阪在荷は一層減少しつゝあり近來小包郵便に依る廣東方面への輸出益々旺盛となるを見るは全く動亂に伴ふ危險に因るものなり而して同地外商は以前に於ては直接人を原産地に派し買出に従事せしめしも是亦動亂以來買收容易ならず止むなく支那商自ら危險を冒し原産地より重慶へ搬出をなすに至り現今之が取引市場は全部重慶に移り時には原産地より高値を唱ふことあり右の如く内地に於ては重慶市場の集散を阻害し外國にありては戰時の危險と船腹の不足を訴へつゝあるため運賃の暴騰驚くべきものあり今假に單に重慶より倫敦までの運賃を計上するに毎擔二十兩(本邦金三十九圓餘)を要し之に危險増加に伴ひ暴

騰しつゝある保険料を加へざる可からず而も戦争は豚毛の需要を益々増加せしめつゝあれば輸出は毫も減退を見ざる盛況にあり同省産豚毛は黑白とも其産額一定し居れば遽かに之が増収を圖ること容易ならざるも將來内亂平定し一般輸送状態の回復を見れば生産の最大可能量を搬出するに至るべく而して歐洲戦争終了後は益々需給状態の不均衡を來し産額一定せるだけ供給不足の状態を醸すなるべく之が價格は今後歐洲産毛地の回復せらるゝ曉と雖も尙ほ戦後の需要に對し絶對特殊の地位にある四川省毛は決して低落することなく却て現在より騰貴すべき見込なりと今左に最近五箇年間の輸出額を擧ぐれ左の如し

年次	白毛束毛	種別	黑毛束毛	黑毛亂毛
一九一三年	一、二三六	種別	七、五五六	六、五六三
一九一四年	一、三五四		八、四三一	六、二三四
一九一五年	一、一〇二		七、八九三	六、九五八
一九一六年	一、〇三六		六、四八九	四、六五一
一九一七年	九六八		五、四九一	五、二八〇

備考 右表中白毛は束毛のみを表示せるも時には亂毛の輸出せらるゝことありしを區別し難きを以て束毛に一括せり輸出價額は各取扱者に依り仕切價額を異にするを以て計上し難し

◎價格騰貴の狀況及其原因 省内産白豚毛の輸出は一昨年迄は

二三外商の獨占状態に委したりしが同年末需要地の本場たる大阪に於る刷毛業者が各購買代理者を重慶に派遣してより相場は此際を一期として二百兩臺に奔騰せり是れ全く一定産額に對し多數競争者の現れたる結果なるが結局豚毛の大部分は依然本邦商により取扱はれ居れば本邦人間濫りに無益なる競争のため支那商をして漁夫の利を占むるは不得策なるを以て本邦斯業者間に購買組合を組織し價格統一を圖らんとするの議起り昨年三

月契約書作製の運びに至りたるも種々の事情のため不調に終れり其頃一度百七八十兩まで下落したる相場は再び騰貴し一高一低小波動を畫きつゝ依然として高値を唱へ今日に及べり之を需給關係より見れば歐洲の需要は動亂に阻害せらるゝ同省産豚毛の輸出額を超過し寧ろ供給不足にして白毛の如き産額の一定數を保つものに至りては特に甚しく爲に市價は逐年暴騰一方なり殊に爲替順調ならず金貨國への輸出品たるに於て昨今の如き銀暴騰に會しては益々賣値を高むるのみにて本年の如き大阪市場露國毛輸入杜絶或は米國輸入禁止（實際は未だ禁止せられざるも）等の聲に相場亂調子となり英商の如き殆ど一時屏息したることあり且つ峽中輸送杜絶のため買荷を空しく重慶に倉入し一度之を搬出するも途中如上の故障に依り停滯を餘義なくせらるゝを以て其利子及費用は直に原價に影響しつゝあり今三時物平均年別相場を示せば左の如し

年次	黑毛	白毛
一九一一年	九六	二四五
一九一二年	九七	二九六
一九一三年	一〇五	三〇六
一九一四年	一一〇	三〇八
一九一五年	一一六	三二三
一九一六年	一二六	三九八
一九一七年	一三五	四二四

要するに價格騰貴の原因は左の諸項に歸するものと察せらる

一、内地動亂は出荷を困難ならしめ需要地在荷拂底状態を脱せざることを

二、需要者數増加の結果競争買煽りをなすこと

三、大阪に於ける刷毛業の好況なること
四、品質を重んずる製造家は専ら四川省産毛を使用せんとする
ること

五、原產地産額一時減少せること

六、峡中交通杜絶のため運搬經費を高めたること及船腹不足
保険率の高上せること

◎豚毛と内地關係 大阪に於て一箇年刷毛製造に使用する白毛
を約百五十萬圓と見て此の内約七十五萬圓は重慶より供給せら
れ殘額七十五萬圓は漢口其他の產地より補充せられつゝあるも
近時露國毛輸入杜絶と重慶來荷の思はしからざるため益々原毛
騰貴の趨勢あり若し漸次露毛の潤澤なる供給を受け一方米國輸
入禁止の實施せらるゝが如きことあらば多少影響を支那毛に及
すべく決して樂觀を許さざるものありと云ふ要之(一)四川省豚
毛の産額は昨年の兵亂以來種豚を亂殺したるため平時に比し約
一割方減少せり(二)白毛は從來日本のみ輸出せられたりしが最
近英國に輸出を試みられつゝあり又黒毛は從來全部歐洲に輸出
せられたりしが歐洲戰爭以來米國に輸出せらるゝもの總輸出額
の四割を占むるに至れり(三)豚毛原產地方に於ける南北兩軍の
對峙及土匪横行のため交通殆ど杜絶し僅に支那商人原產地より
重慶に搬出するのみにして取引市場は同市に移れり(四)昨年末
大阪刷毛業者が購買代表者を重慶に派してより價格は奔騰して
二百圓臺となれり

貿易

青島貿易近況 (九月)

本月中埠頭輸出入貨物の數量を見るに其の陸揚(輸入)に在りて
は一萬八千八百三十七噸七を示し船積(輸出)に在りては三萬二
千三百七十二噸七を算せり即ち輸出の輸入に超過すること一萬
三千五百三十五噸に上れり蓋し石炭の需要期に入れる爲め淄川
博山兩炭の輸出著しく増加し一萬三千餘噸に上れるは其主因た
るべし而して之を前月に比すれば輸出入共左表の如く減退を示
せり

	八月	九月	比
陸揚貨物	二七、六〇九・三	一八、八三七・七	八、七七一・六(減)
船積貨物	三八、一一二・二	三三、三七二・七	五、七三九・五(減)
計	六五、七二一・五	五二、二〇四・四	一四、五一一・一

更に夏枯期たる五月より九月迄の輸出入貨物を昨年同期と比較
するに左表の如く輸入貨物に於て二萬三千餘噸の減少を示し輸
出貨物に於ては一萬二千餘噸の増加を見たり其理由は輸出貨に
在りては鹽、石炭、コークス、牛肉の輸出が昨年比し激増せ
る結果にして輸入に在りては白米、燐寸、石炭、麥粉等の減少
せる結果に外ならず

陸揚貨物(輸入) △印減 ○印増

	大正六年	大正七年	比
五月	四一、九五五・一	三〇、八八八・二	△一、〇六二・九
六月	二九、八七五・三	二五、〇二八・〇	△四、八四七・三
七月	二四、八七九・二	二八、〇六六・八	△三、一八七・六
八月	三一、二六二・七	二七、六〇九・三	△三、六五三・四

九月 二五、六七六・一 一八、八三七・七 △ 六、八三八・四

計 一五三、六四四・四 一三〇、四三〇・〇 △二三、二一四・四(減)

船積貨物 (輸出)

大正六年 大正七年 比 較

五月 三八、九四八・〇 三五、六二二・五 △ 三、三二五・五

六月 三九、四一七・八 四三、九五二・三 〇 四、五三四・五

七月 三九、二七七・九 四〇、六四〇・七 〇 一、四六二・八

八月 三二、八四四・八 三八、一一二・二 〇 五、二六七・四

九月 二七、九九三・四 三二、三七二・七 〇 四、三七九・三

計 一七八、三八一・九 一九〇、七〇〇・四 〇一二、三三八・五(増)

主要貨物情勢 (九月)

輸入貨物中昨年同期と比較し著しき現象を示せるは白米、燐寸、石油、麥粉の輸入減退と木材、燐寸材料、セメント、豆粕の増加にして燐寸、麥粉の減退は當地製品が輸入内地品を撃退せる結果にして石油はスタンダード會社の「タンク」船が軍用に供され海外輸出に一頓挫を來したる爲め在日本同社の賣惜となり日本品の需要激増せる結果著しく品拂底となり爲に海外に向つて充分の供給を爲し得ざりしに依なるべし尙白米の如きは内地相場が未曾有の暴騰を告げたる爲當地の需要は大部分江蘇米に走り從來の鮮米輸入をして著しく減退せしめし結果に外ならず而して木材及セメントの増加は當地建築界の需要旺盛を極めたる爲め輸入の激増を見るに至りしものなり輸出に在りては鹽、石炭、麥粉、牛肉の輸出増加し落花生實の減退を見るに至りたるが鹽は内地不作の爲め前號記載の通り當地商人が日本政府との契約を有する爲めにして燐鹽の輸出は鹽田の増設と相俟て年々其數を増加するに至るべし石炭は上海方面に於ける取引好況を呈せる爲め昨年に比し幾分の増加を見るに至り而して牛肉及麥

粉に在りては昨年の輸出皆無なりしにも不拘本年に於て牛肉三百三十噸麥粉二百三十四噸の輸出を見るに至りたるは當地製粉會社の製品が漸く輸出力を體現するに至りたると昨年試験的に輸送せる山東牛肉の内地に於ける賣行頗る良好なりし爲め需要の激増を來せるに依るものとす又落花生實の減退は米國への輸出不如意なると製油氣配に因り一般買手控の爲如斯現象を示すに至れるものとす

而して本月中(九月)主要貿易品の輸出入狀態を示せば左の如し

輸入		輸出	
品目	數量(單位)	品目	數量(單位)
白米	二〇一・八	落花生實	二〇二・〇
麥粉	一〇一・八	麥粉	二三四・三
白砂糖	二九八・六	牛肉	三三〇・八
煙草	七〇〇・三	麥酒	四八九・二
石油	二、五一九・一	鹽	六、四五〇・〇
綿絲	二、一〇二・四	落花生油	一八五・六
綿布	八八九・二	豆油	三〇九・六
麻袋	二五一・〇	絹屑	九〇三・五
石炭	一、四一四・〇	棉花	九四九・一
木材	二、四五三・六	博山炭	五、九三三・三
燐寸材料	六九〇・二	淄川炭	八、〇九七・〇
支那紙	七一六・一	コークス	一、一八三・六
燐寸	五四五・五	桐材	五六八・七
セメント	二八二・五	麥稈	三三〇・六
豆粕	四四四・四	果實	五九六・七

青島と日本内地

貿易上より見たる

日獨戦後青島と日本内地との汽船貿易を見るに、近時日本人の當方面發展著しきものと共、其の對内地貿易關係も頓に増大を示せるは欣ぶべきこととなすべし、即ち大正四年以降大正六年に至る三箇年を通せる埠頭陸揚中日本内地よりの仕出に係はるもの約三十四萬二千三百噸を算し、又埠頭積荷も日本仕向の分此の三箇年を合せ三十九萬九千八百七十噸を示し對各地貿易數量中最要最多の地位を造れり、而して此の數字は逐年増加の徴を示し居れり、假へば大正四年中の内地よりの輸入數量は九萬六千七百九十一噸なるが其の翌年大正五年には十二萬〇二百十六噸を算し更に大正六年に至ては十二萬五千二百九十五噸を示せるが如し、而して輸出の方に於ても大正四年中日本内地への輸出數量は六萬四千噸のもの翌大正五年に至り十一萬五千噸に上り更に大正六年に及び二十一萬九千噸を算するに至れり蓋し輸出増加率の大なる一見驚くべきものあり以下各表を示して聊か參考に資する所あらんとす

内地青島間輸出入比較

(埠頭陸揚船積數量)

	大正四年	大正五年	大正六年	計
輸入	九六、七九一・七	一一〇、二一六・三	一二五、二九五・九	三三四二、〇三・九
輸出	六四、一〇二・九	一一五、八八六・〇	一二九、八八一・七	三九九、八七〇・六

本表に據るときは大正四年、同五年は輸入超過を示し大正六年に至て輸出超過を示せり而して大正六年の超過が稍や大なりし丈此の三箇年を通じては結局輸出超過を示すに至れり

各地仕出埠頭陸揚數量比較對照

(青島各地間貿易輸入數量)

仕出地	大正四年	大正五年	大正六年	計
日本内地	九六、七九一・七噸	一一〇、二一六・三噸	一二五、二九五・九噸	三三四二、〇三・九噸
上海	三三、二九六・六	四四、九四九・九	七六、七五〇・〇	一五五、〇九六・五噸
大連	三三、二八〇・〇	三五、九五六・九	二六、九九〇・九	一七五、二五八・八噸
芝罘	六〇、七九	四二・七	一、七三〇・〇	二、〇〇二・六噸
天津	五二・九	六五・八	三〇、七一五	一四九、〇三噸
天支那各港	三、四七	一〇、五八	一、四四二・一	二、七四六・六噸
臺灣	三六・一	七三・三	一、八三〇・〇	一、九三六・二噸
釜山	六八、八三三	四六・〇	五、四七〇・〇	一八、二六四・三噸
仁川	七〇、八二四	一四、〇九二・一	三、七〇・四	四、九四八・九噸
香港	二五、二六〇	二・三	二五・八	二八・〇噸
マニラ	一五、二六〇	一九、〇〇七	三、七四四・四	五、二六八・〇噸
浦鹽	一八、四七五	二四、三五五・三	三六、三八三・三	八二、二九九・九噸
其ノ他外國				
計				

以上の如く各年共に日本内地よりの仕出を以て最多とし上海、大連之に次ぐり而して其の重なる輸入品は綿絲、綿布、燐寸(但し本年は激減の見込)雜貨、石油、木材、鐵類、砂糖の類にして左表之を證せり

日本内地仕出埠頭陸揚貨物數量

(輸入品數量、單位噸以下一位)

品目	大正四年	大正五年	大正六年	計
白米	三五、五九九噸	二九、九八噸	六八、三九噸	一、三九六噸
麥粉	〇・三	四・九	三、五三三	三、五七〇・五噸

其ノ他穀類	二二九	一八二七	一、三三〇	一、五七六
海產物	一、八〇四	二、〇七四	二、三五四	六、七三三
綿絲	二五、四三八	二七、九六五	三、六七一六	七、三二九
煙草	三八、四一三	五、九四一	七、三〇〇	二、五五三
起泡飲料	二二九〇	一九七	一七三	二、五五九
酒(日本酒)	一、五二七	二四八	二〇〇五	五七八〇
洋酒	一、三五一	一、〇八六	一、三二二	四、六九一
麥酒	七、二四四	一、〇九	五七三	七八二
鐵類	四、五五九	一、三〇九	六、七九	二、六三三
金屬製品	一、七四〇	二、六二一	一、八七一	九、〇三七
其ノ他金屬	一九五	九六七	一、〇七二	四、三九四
玻璃類	一、六五七	一、六二一	一、五八〇	二、二〇
染料塗料	一、〇七六	三、四八七	二、〇四三	四、五九六
藥品藥材	五、〇〇二	五、六一	一、〇六六	一、五〇六
蔬菜果實	一、九四九	二、五七〇	三、〇三九	二、〇二九
砂糖	一、三三九	二、九三八	四、八三七	六、六四八
食料品雜貨	一、六六八	一、三七六	一、五九六	四、四〇四
茶	九七三	二四六	三八二	六、〇四二
襪類	一、八三七	九、六八二	一、八四一	五、二八八
家具類	二、〇五五	一、〇六八	五、四七	三、九七〇
紙類	六、三三	一、〇八四	一、八七三	二、九〇〇
洋物雜貨	三、〇五八	三、六五一	三、七四二	一、〇一五
機械	二、〇三四	三、〇九二	一、四四〇	一、九六六
電用品	七、三六〇	三、六三五	五、三六五	八、九〇〇
車衡	七、三六〇	七、四八	四、三三	一、二四六
度量衡	六、四三八	一、〇四八	一、九八三	三、九
石油	一、七二	七、五八三	五、八五三	二、八七八
桐油	〇三	〇一	〇三	三、五五五
油類	三、八一	三、六六	二、八二〇	九、六六七

更に輸出の方面を見るに之も輸入同様日本内地への仕向を最多とし上海、大連之に次ぐり

輸出品の重なるものは次表に示す如く眞鍮塊、金屬類、棉花、桐材、落花生、落花生油、豆油、鹽、石炭、牛骨、牛皮、コークス等なり

最近山東產小麥の海外輸出解禁を見たるを以て内地の相場折合はば之も重要輸出品の一たるに至るべし、元來青島貿易は農産物の出廻りたる冬季を以て最も活況を呈するものありしが今回小麥の輸出を見るに至りては閑散なる夏季貿易の睡夢を一掃するに至るべし

麻袋	二八八	三、五四三	六八三	五、九四
木材	六、八六五	一、〇三九	一、二七三	二、八二六
木炭	三、五〇六	二、三〇三	二、〇九二	七、九七七
コークス	一、七八五	一、七九	七〇	二、四九
石材	一、四七四	八、九〇二	四、〇〇三	一、四七二
竹材及製品	二、〇一	二、〇一	九、三五	三、四一〇
麥稈	三、三	三、三	二、三	二、四五
綿花	一、八一	九、三六	一、八六	三、六七
絹布	一、八一	八、五二九	七、二二	一、五五〇
漆器	一、八八六	一、五三八	六、五五	二、四八七
セメント	一、五三八	五、〇五	一、〇四三	一、五三八
アスファルト	二、八七	八、五二	一、〇六九	一、〇六九
味噌醬油	五、二	二、四	一、七六	一、七六
蠟燭	五、八五	二、八四	八、七三〇	四、五〇
煉瓦	四、五〇	二、八四	八、七三〇	四、五〇
書畫類	七、六九五	二、八四	八、七三〇	四、五〇
其ノ他	九、五五五	二、八四	八、七三〇	四、五〇
合計	九、六七一七	二、〇二七	一、二、四四四	三、八四八

▲各地仕向埠頭船積數量比較對照

(青島各地間貿易、輸出數量)

仕向地	大正四年	大正五年	大正六年	計
上海	四〇八〇六	七九八三八	二〇八八三七	二五、六三八一
大連	六八〇〇二	一〇九三九七	一八、二〇四	三五、八〇三
芝罘	一四四六九	七八三〇〇	二五九四五	一、八九三四
天津	二五二八四	三七〇	九六三八	三八九三
其他ノ支那諸港	二〇三三	二、八〇〇	二、五一一	七、三六五
日本	六四、〇二九	二五、八六〇	二九、八八七	三九、八七〇六
仁川	五、六〇五	一、三三七〇	九〇七八六	二七、〇八六
釜山	二九〇九三	一七八九四〇	一七、五一七	六四、三六〇
香港	一五、九五三	四四、五九八	二五、〇〇九	八五、四九〇
浦鹽	七、七六〇	九九九二	六、二七八二	一五、一四三
臺灣	六五、二五	九六六	一四九	二四四五
マニラ	一〇八四三	二、三九七	一、五一一	三、三四〇
其他ノ外國	一七、〇八四九	二、九四七五	四、五九四〇六	九〇、七七一一

▲日本內地仕向埠頭船積貨物數量

(輸出品數量、單位噸以下一位)

品目	大正四年	大正五年	大正六年	計
穀類	一五、〇四四	五、三七三	四、一八五	二六、六〇二
麥稈	二、七二五	四、五八五	三、八八八	一〇、四八八
麥酒	〇三	二一	八二三	八三三
煙草	〇三	〇一	—	〇三
鐵(古鐵ヲ含ム)	四、六六八	一、八七一	一、四三八	七、四八七
金屬製品	七三九	三三三	一、〇三二	二、一〇四
眞鍮塊	—	—	四、四七三	四、四七三

其他ノ金屬	八、九四六	四七、九六四	七、七三	五七、六七二
海產	一、六九二	一九一五	二一九	四七、二五
蔬菜	九一八	二九七	三七三	一五八七
綿花	七九〇八三	三〇、三八四	二五八九	一三五、八五
絹絲	八二五	〇三	八二八	—
繭屑	二六六五	一四	二八、四	五、四九九
藥品	二九五	一四	三〇九	—
藥材	一〇、九二〇	一六五二	四六、二	一、〇三三
染料	一、六九七	四六五三	三七五	二、四三四
桐油	二七四六	九七八	三〇	三七五四
落花生	一、六三九	二八、九七	五、三三三	九、六八四
落花生油	一、九六四三	九、一三四六	八、七八五	一九、八八四
豆油	四〇、四九六	一、三六七〇	一、三六〇四三	三、三六九
豚油	一、七二七	六八、九二五	二、四四九七	一、四四九七
牛油	—	—	八三	—
蓖麻子油	四、三八三	一、五二四	一、五三八	三、二三五
其他ノ油類	一、三〇二	四、二六五	六七五	六、二四三
鹽炭	一、六二七	三〇	〇八	一、六六五
石炭	三〇五五	一〇、五一九四	二、一八四〇	二、一八四〇
豆粕	五九〇八	二、一一九	六、七四〇二	七、八三七〇
生肉	一、五二七	三、一七九	六、三六二	八、〇六〇
牛骨	二九	—	二〇九九	二〇九九
生毛	一五九	—	一五九	—
羊毛	七、四六五	五九二二	七、七九	二〇、五六六
豚毛	—	〇六	四、一	—
其他ノ獸皮	一、三二三	三、五六七〇	一、六五三	六、五三三
桐油	一、八五	—	七、五	七、五
洋物雜貨	一、三〇一	六七	一八二	一、〇三〇

鮮魚	二七二	一六九
玻璃及製品	〇七	〇九
食料雜貨	一〇四四	一〇四四
機械	三九	一〇八四
車輛	七五	一九八
衣類	一九二	二六二
家具	六三八	三六二
コ・カ・ス	四〇五	三六二
木材	二四九	三六二
紙	二〇一	一五九
曹磁	八七二	二〇一
陶磁	二八	八七一
麻	二七二	二八
石	〇三	五九
其他	一九五二	二八九
合計	二五八六〇	七四九五

次に汽船出入の概況及汽船旅客の出入は本港と内地との關係を觀察する上に於て必要缺くへからざる事項と信するを以て左記概略を示して對日本内地との貿易關係近況を終るべし

船舶出入概況

一、日本内地仕出入港汽船

國籍	大正四年	大正五年	大正六年	計
日本船	一五三	二四一四六	一五三	七九九九
支那船	一五三	一五三	一五三	一八五四
露國船	一五三	一五三	一五三	一五二
佛國船	一五三	一五三	一五三	一五二
計	一五三	二四一四六	一五三	七九九九

備考 大正六年の噸數は登簿噸數を示す

大正四年中の入港汽船總數は五百八十九隻此の總噸數一、〇八八、一〇九噸にして大連よりの二百六隻(三二七、八九二噸)を首位とし次に日本内地より百五十二隻(三二五、四三二噸)を第二位とす、次に大正五年に在ては入港總隻數六百四十五隻(總噸數一、〇六一、一七〇噸)中依然大連よりの二百十二隻を最多とし日本内地之に次ぐり、越て大正六年に在ては七百七十一隻(登簿噸數八〇四、二〇六噸)中大連よりの二百四十五隻、上海よりの二百〇三隻を最多とし日本内地よりは百四十六隻を以て第三位に下れり

二、日本内地仕向出港汽船

國籍	大正四年	大正五年	大正六年	計
日本船	一三七	二〇七	一五三	六〇七
支那船	一三七	一五三	一五三	四八三
諸國船	一三七	一五三	一五三	四八三
計	一三七	二〇七	一五三	六〇七

備考 大正六年の噸數は登簿噸數を示す

大正四年中の出港汽船總數は五百八十四隻(總噸數一、〇八七、〇九〇噸)にして入港同様大連を以て首位とし次に日本内地への分を第二位とす、大正五年に在ては總隻數六百四十九隻總噸數一、〇六六、一七九噸)にして日本内地への分は大連、上海の次に位せり、大正六年に在ては總隻數七百六十五隻(登簿噸數七九八、四九六噸)中日本内地への分は前年同様大連、上海の次に座せり

汽船旅客出入概況

一、入港の部

國籍

大正四年

大正五年

大正六年

計

日本	一三、〇一四	一〇、三八八	一〇、六六九	三四、〇七一
支那	一四四	二八九	一八六	六二〇
英國	一三	八	一三	三四
露國	三	一	八	一二
佛國	二二	四	四	四〇
米國	四	四	四	四
獨逸				
諸威				
土耳其				
瑞典			八	三八
印度	三			三
希臘				
和蘭		一	一	二
伊太利				
西班牙			一	一
瑞西				
葡萄牙				
比律賓		三		三
丁抹	一三、二四四	一〇、六九五	一〇、九〇四	三四、八四三

大正四年中各地よりの汽船旅客は總數四萬九千四百二十六人に
して大連よりの二萬六千五百九十九人を第一とし次は日本内地
よりの分を最多とす、大正五年に在ては總數五萬九千六百八十
九人中依然大連よりの分を首位とし日本内地之に次げり、大正
六年に在ては總數六萬六千七百六十九人中前同様大連よりの四
萬四千三百二十一人を筆頭とし日本内地之に次げり、即ち日本
内地よりの分を三箇年に亘りて見るに大正四年を最多とし翌大

正五年に至りては約三千人の減少を示し大正六年に於ても先づ
一萬臺に在りて大差なきに似たり、蓋し大正四年は占領後時日
最も新しく新天地開拓のため渡來したるもの多かりしが爲めに
して所謂一時的現象と目すべく今日に於ての増加割合は先づ健
實なる方なるべし

二、出港の部

日本	七、二〇九	七、一四〇	八、九六〇	二三、三〇九
支那	五九	一五〇	一八一	三九〇
英國	一二	七	二〇	三九
露國	七	二〇	一	二八
佛國	三	七	二	五
米國	二	七	一八	二
獨逸				
諸威				
土耳其				
瑞典				
印度				
希臘				
和蘭		一		一
伊太利			一	一
西班牙			六	七
瑞西				
葡萄牙	二			二
比律賓	一			一
丁抹	七、三〇二	七、三二六	九、一八九	二三、八一七

大正四年中の出港汽船旅客總數は二萬九千七百七十人にして入

港同様大連を首位とし日本内地之に次ぐり大正五年に於ては俄に増加し五萬九千五百七十三人を算し此の内大連への四萬一千五百五十一人を第一位とし日本内地之に次ぐこと前年同様なり又大正六年に在ては實に十五萬九千八百〇五人を算するに至れり之れ全く支那勞働者のバンクローバー、マルセイユ行を加ふるが爲にして一種變態出港を示すもの、普通より見れば前年と同じく大連への八萬三千五百二十五人を筆頭に日本内地之に次ぐこと例年と異ならず、而して入港出港共に旅客の最多數を占むるは大連なるが之も支那人を多く算すること畢竟例の苦力の出入頻繁なるがためにして日本人旅客の出入は所詮日本内地との關係に據るもの多く寧ろ之れ自然の情勢なりとす猶ほ日本内地との汽船旅客出入を比較するときは

出	入	大正四年	大正五年	大正六年	計
入港汽船旅客	一三、二四四	一〇、六九五	一〇、九〇四	三四、八四三	
出港汽船旅客	七、三〇二	七、三二六	九、一八九	二三、八一七	

即ち此の三箇年に於ては何れも出港者よりも入港者の方多く大正四年には五千九百四十二人、大正五年には三千三百六十九人、大正六年には一千七百十五人、結局三箇年を通して一萬一千〇二十六人の入港超過を示す譯なり



海運及鐵道

青島最近船舶出入 (九月)

當月中入港船舶(汽船)は六十五隻此登簿噸數四萬五千七百七十三噸出港六十九隻四萬七千六百八十二噸にして積載貨物は入港卸荷一萬八千八百三十七噸七出港積荷三萬二千三百七十二噸七を算せり而して之を一月よりの累計に徴するに入港六百七十九隻五十六萬八千六百三十六噸、出港六百八十二隻五十七萬三千三百五十七隻にして卸荷二十六萬七千二百八十六噸二積荷三十八萬六千五百七十一噸三合計六十五萬三千八百五十七噸五に達せり之を昨年九月分と比較すれば左の如し

本年九月	入港	出港	卸荷噸數	積荷噸數
本年九月	壹、四七三	壹、四六二	一八、七三七	三、七三七
昨年九月	壹、七六八	壹、六九〇	二五、六六一	二、七九三
増減	△二、二九五	△二、二二八	△六、八八四	〇、九三九

臨時船舶出入情况

近來臨時船舶の出入著しく増加せるが其大部分は鹽積取船にして最近の分を揚ぐれば左の如し

△益進丸は上海より入港揚荷千五百噸積荷千二百五十噸にて上海へ△伏見丸は小樽より入港揚荷板材六百噸にて門司へ△第二御崎丸は釜山より入港積荷小麥外一千噸にて橫濱へ△日運丸は上海より入港大連へ△マドラス號は香港より入港石炭コークス一千噸を積みて香港へ△第二海王丸は門司より入港揚荷百八十五噸積荷鹽六百五十噸にて門司へ△第二仁義丸は上海より入港積荷鹽千二百噸にて函館へ△彦島丸は上

海より入港積荷鹽千三百噸にて大阪へ△大日山丸は門司より入港積荷鹽八百噸にて門司へ△三國丸は門司より入港揚荷百八十五噸積荷鹽千二百噸にて釜山へ△平國丸上海より入港積荷鹽六百噸釜山へ△山光丸は仁川より入港積荷鹽八百噸にて門司へ向へり

青島と朝鮮航路

朝鮮總督府が仁川を起點として鎮南浦、新義州、大連を経由して青島に至り直路仁川に復航する航路を命令航路として企圖し先般來青島方面の物貨關係を實地に付き調査せしめたる結果本航路を以て最も有望なるものと斷定し朝鮮郵船會社に補助金を交付し之に従はしむる事に確定せるものゝ如し而して之が實現は來年四月以後なるべく補助金の總額は未だ明白ならざるも年額十四五萬圓見當なるが如しと

備船運賃軟調

備船料及運賃市況が最近講和氣構竝に對米提供船十五萬噸の返船を氣構へに漸く軟調を示すに至り氣配は漸落の步趨を辿り居れるも唯講和の成立尙容易ならざるべしとの觀測ありて辛ふじて軟氣配を喰止め居るの有様なり併し今日の狀態より推せば大勢向後軟調に入るべきは明なり最近の氣配を示せば

▽備船料

△大型船(五千噸以上)三十五圓△中型船三十一圓△小型船(普通遠洋)二十八圓(近海)二十五圓△歐洲航路四十七八圓見當

▽近海運賃

門司	門司	大連	青島	青島	青島
上	橫濱	神戶	大連	神戶	上
(石炭一噸ニ付)	(〃)	(豆粕一噸ニ付)	(〃)	(石炭一噸ニ付)	(〃)
八圓四十錢	十圓七十錢	八十六錢	三十五錢	十二圓	十三圓
					八圓

内地近海運輸近況

内地近海運賃は十月に入り出貨輻輳せる爲め船腹の不足せる結果と時化時期に入りたるにより依然硬調を失はず寧ろ昂騰の氣勢を示しつつあり而して瀬戸内海航路は大阪商船、尼ヶ崎汽船、宇和島運輸、阿波共同四社のコンフェレンスにより時々運賃率の改正を爲せるが今回愈内海航路一體に對し平均三割の運賃引上を決定するに至れり最近の積荷契約船名數量を示せば左の如し

船名	積荷種類	積荷數量	航路	運賃
浦潮丸	豆粕	一八、五〇〇擔	大連—神戶	一、〇〇〇
第二研究丸	石炭	一、〇〇〇噸	青島—釜山	一、二〇〇
(連續三航)				
萬榮丸	〃	一、七〇〇噸	●若松—橫濱	一〇、五〇
大國丸	〃	五五〇噸	唐津—兼二浦	六、三五
大勢丸	〃	三、〇〇〇噸	若松—伊勢	七、七五
(每航六百噸連續五航)				
三星丸	〃	六〇〇噸	若松—熱田	七、五〇
神德丸	〃	六二〇噸	若松—熱田	七、七〇
三幸丸	〃	六七〇噸	唐津—神戶	四、八〇
(連續二航)				

市内三驛發著主要貨物 (十月)

當月中青島驛、大港驛、埠頭荷扱所の三驛に於ける主なる發著貨物を昨年同期と比較對照するに左表の如く發送貨物中著しき増加を示せるは砂糖、油粕の二品にして減退せるは石油、麥粉なりとす又到著貨物に在りて減退せるは生牛、桐材の二種にして激増せるは石炭、コークス、小麥、綿、葉煙草等を主なるものとし其他皆幾分宛の増加を示せり

▽發送品 ○は増△は減

本年十月中 昨年十月中

比較

麥粉	四・一	五〇三・四	△	四九九・三
高粱	二〇六・一	五五〇・七	△	三四四・六
木材	一一〇・六	三八二・一	△	二七一・五
支那紙	二五五・五	一二三・四	○	一三二・一
綿布	四七八・七	五〇二・六	△	二三・九
綿絲	一、四一三八	一、八〇三・四	△	三八九・六
石油	八九五・六	二、六九一・八	△	一、七九六・二
煙草	五三三・六	四二・二	○	四九一・四
魚類	一二五・一	一九五・八	△	七〇・七
雜貨	一七七・七	二二二・七	△	四五・〇
燐寸	一、〇二二・〇	九三六・九	○	八五・一
燐寸材料	一八六・六	二二六・〇	△	四九・四
麻袋、布袋	一一二・〇	二二・四	△	一〇〇・四
砂糖	二〇四・九	四二・八	○	一六二・一
砂	二、三七二・〇	四九二・三	○	一、八七九・七
▽到著品				
生牛	一、四八九・〇	三、一九三・〇	△	一、七〇四・〇
石炭	四、八九四・六	二、八六四・六	○	二、〇三〇・〇
コークス	四、〇九一・〇	二、八二八・六	○	一、二六二・四

石炭	八六二・〇	二七〇・〇	○	五九二・〇
小麥	一二、四六三・八	一五四・五	○	一二、三〇九・三
米	三〇八・四	—	○	三〇八・四
綿	一、〇〇六・四	五・二	○	一、〇〇一・二
豆油	一、一六一・五	一、二二四・四	△	六二・九
葉煙草	四五五・八	一〇〇・〇	○	四四五・八
獸骨	二五七・六	一八一・四	○	七六・二
牛皮	二五〇・三	二〇〇・九	○	四九・四
桐材	三八六・六	五九一・三	△	二〇四・七
木材	二五八・三	—	○	二五八・三

濟南驛發著貨物 (九月)

九月中山鐵濟南驛にて取扱へる主要貨物を見るに發送に於ては輸出解禁を目前に控へたる小麥六千五百餘噸が一頭地を抜きて主位を占め棉花七百十噸、籽六百一噸、石油空罐四百九十一噸、高粱四百二噸、夫々之に次ぎ以下麥粉、麻、油類、油粕、雜貨各三百噸以下二百噸以上に達し到著の部に於ては需要期に近ける石炭の四千六百噸が主位を占め砂糖千三百噸、骸炭九百卅噸、綿糸九百九十二噸、石油四百四十噸、綿布四百噸等相次ぎ以下陶器雜貨各三百噸に近し而して此等發貨の中青島、大港、埠頭三驛との間に直輸送せられたる數量を見るに發送小麥は青島驛七百七十二噸、大港驛三千二百九十二噸、埠頭二千四百八十一噸にして全部青島へ向られ棉花は約五百噸、迄米は五百八十五噸、空罐は全部油類も亦殆ど全部青島へ向られ居り、到著貨は砂糖五割、綿糸布殆ど全部石油全部青島より仕向けられ居れり、今各著發貨數量を擧ぐれば如左

▽發送貨物 (單位噸十五噸以下の貨物を省く)

骸炭	發送數量	青島仕向	發送數量	青島仕向
一八九・六	一八九・六	石炭	五三・二	—
一六四・〇	一六四・〇	木材	一六一・〇	一・八

鐵器	八一〇	四〇八	錫	五八・九	一五・七
古鐵	一五〇・四	二四・七	大豆	七二・八	
豆類	一二八・五	四六・二	高粱	四〇二・四	二六八・七
小麥	六、五五〇・三六、五五〇・三		米	六〇一・一	五八五・七
穀類	一五六・七		落花生	一五〇	
麥粉	二一六・〇	一三〇・五	麻	二二三・六	九二・三
棉花	七一〇・一	四九三・九	棗	二九〇	九・六
油類	二二五・一	二一〇・一	油粕	二二四・〇	
肥料	二二〇		麥稈眞田	二五〇	二五〇
鷄卵	二七〇	二七〇	藥材	三八〇	二七・七
茶	二七〇	二三	羊毛	四三七	七八
獸骨	八五・六	四一・四	牛皮	四三四	四三四
雜貨	二五四・七	五八・八	燐寸	三一七	
銅貨	六三・九		制錢	八〇〇	八〇〇
空鑪	四九一・〇	四九一・〇	生牛	一四〇(頭)	一四〇(頭)
驢馬	三四五(頭)				
▽到著貨物					
石炭	四、六〇五・〇	青島仕出	骸炭	九三〇・〇	青島仕出
硝子器	五〇・六		木材	一七・六	
石臼	四五・〇		陶器	二七四・七	五四・五
支那紙	一五二・〇	五五・〇	綿布	三九九・三	三四三・〇
綿絲	五九二・五	九二九・九	胡桃	一九〇	
石油	四四一・三	四四一・三	砂糖	一、二九八・五	六七七・五
鷄卵	四一・四		藥品	一七・一	一六・七
石鹼	二八〇	二八〇	煙草	一七三・三	一七三・三
茶	三九・五	三五・二	魚類	七一・七	六七・七
雜貨	二九八・六	二一八・九	燐寸	一六八・七	一六八・七
麻袋	一一九・二	一〇二・六			

津浦線濟南驛發著貨物

津浦線濟南驛の九月中發送貨物の主なるものは白米の二千三百十噸を第一とし雜貨の千七百六十五噸綿糸の千三百二十噸麻の九百七十噸石炭の八百六十五噸木材の六百八十五噸棉花の五百七十五噸等漸次相踵ぎ到着貨物は小麥の一萬一千百〇五噸を第一に棉花の二千二百噸米の千八百十噸麻の千五百五噸石油鑪の千三百十五噸茶の七百噸各相踵ぎて主要地位を占め居れり今百噸以上の種類數量を擧ぐれば左の如し

▽發送貨物

品種	數量	品種	數量
----	----	----	----

▽到著貨物

品種	數量	品種	數量
----	----	----	----

麻	九七〇	麥稈眞田	二三〇
綿絲	一、三二〇	麥粉	二一〇
石油	三三〇	密貨	五三〇
羊毛	二七五	砂糖	二〇五
紅土	一七〇	棉花	五七五
木炭	八六五	落花生油	一〇〇
燐寸	八一〇	白米	二、三一一
雜貨	一、七六五	豆油	四二〇
梨	四二〇	煙草	二〇五
棗	一三五	土布	一二〇
		生牛	三九〇頭
洋貨	二九五	茶	七〇〇
米	一、八一〇	小麥	一、一〇五
桐油	一二〇	紙	五三〇
麻竿	一、五〇五	綿布	二六〇
竹	三〇〇	棉花	二、一〇二

石 油 罐	一、三一五	棗	一六〇
古 衣	四一五	鷄 卵	一三〇
花 生 油	二三五	菁	四二五
麥 粉	四八〇	磁 器	三四〇
セメント	四八〇	雜 貨	二一五
鐵 材	一四〇		

れ麥稈眞田、麥粉、生牛、羊毛、土布等は全部天津へ仕向けられ居り一方到著貨に就て見るに小麥は一萬一千餘噸の著貨中禹城仕出の三千五百噸を除き全部濟南以南の仕出に掛り徐州九百噸、濟寧七百八十噸、滕縣、蚌埠各六百九十噸にして浦口尙六百七十噸を占め遠く南端迄及び居れり棉花は二千百噸の内德州仕出が過半を占め桑園亦德州仕出の過半を占め連城禹城各百八十餘噸三十餘噸にして米は全部浦口仕出に掛り麻は千百噸の内濟寧の十五噸を除き他は全部大汶口の仕出とす其他茶は全部蚌埠、紙は全部浦口、棗は禹城、鷄卵は德州、落花生油は大汶口、鐵材は濟寧の仕出にして洋貨、綿布、セメントは全部天津、桐油竹竿、磁器、雜貨は全部乃至大部分浦口仕出に係るものなり

青島港出入汽船細別表 (十月中)

△入 港 ノ 部					
入 港 月 日	船 名	國 籍	登 簿 噸 數	揚 荷 噸 數	揚 荷 主 要 貨 物 名
十 月 一 日	江 原 丸	日 本	四二六・九四	三〇〇・〇	雜貨
同 二 日	第十六共同丸	同 本	九一七・五三	三五〇・〇	石炭、雜貨
同 四 日	塞 北 丸	同 本	一、五二二・五〇	五八七・一	雜貨、綿絲、食料品、構寸材料
同 五 日	神 戶 丸	同 本	一、五三六・〇七	一〇〇・〇	同
同 六 日	通 州 丸	英 國	一、二六二・五九	六二八・二	セメント、雜貨
同 七 日	益 進 丸	同 本	一、三四五・九〇	一〇〇・〇	雜貨
同 八 日	金 進 丸	同 本	五五八・九九	九〇〇・〇	同
同 九 日	官 陸 號	英 國	一、三三三・〇〇	五二・五	麥稈眞田
同 十 日	龍 平 丸	日 本	四三一・二六	一五〇・〇	石炭其ノ他
同 十一日	第十六共同丸	同 本	九一七・五三	一〇〇・〇	雜貨
同 十二日	直 江 津 丸	同 本	四五〇・六九	三五〇・〇	同
同 十三日	神 天 丸	同 本	八七六・〇〇		
上 海	芝 罘	大 連	天 津	上 海	大 連

[illegible]

出 港 月 日	船 名	國 籍	登 簿 噸 數	積 荷 噸 數	積 荷 主 要 貨 物 名	本 船 仕 向 地
十月一日	西原丸	日本	一、五一・〇〇	一、三〇〇・〇	棉花、桐材、鐵屑、眞田其他	大阪
同 二日	江原丸	同	四二六・九四	四五〇・〇	鹽	仁川
同 三日	第十六共同丸	同	九一七・五三	二〇三・三	豆油、綿花其ノ他	大連
同 五日	柳洲丸	同	一、三四五・九〇	四〇〇・〇	雜貨	上海
同 六日	神戶丸	日本	一、二六二・五九	三四四・二	花生、麥稈、絹絲其ノ他	上海
同 六日	神戶丸	日本	一、五三六・〇七	五〇・〇	雜貨	大連

出 港 月 日	船 名	國 籍	登 簿 噸 數	積 荷 噸 數	積 荷 主 要 貨 物 名	本 船 仕 向 地
十月二十二日	益進丸	同	五五八・九九	一、二〇〇・〇	雜貨、綿絲、其ノ他	上海
同 二十三日	直江津丸	同	三九六・五〇	—	—	門司
同 二十三日	二見丸	同	五四三・〇〇	—	—	同
同 二十三日	第十六共同丸	同	九一七・五三	三〇〇・〇	石炭、雜貨	芝罘
同 二十四日	湖北丸	同	一、六一〇・八〇	一〇〇〇・〇	雜貨	大連
同 二十四日	海州丸	英國	六四一・三三	六三〇・四	砂糖、鐵、塗料、其ノ他	香港
同 二十四日	龍平丸	同	四三一・二六	二二〇・〇	石炭、雜貨	大連
同 二十五日	薩摩丸	同	一、二五・六九	三八五・五	綿布、煙草、陶器、雜貨	門司
同 二十五日	基隆丸	同	九六二・九四	一〇〇〇・〇	雜貨	上海
同 二十五日	能登呂丸	同	八四五・三三	一、〇〇〇・〇	同、其ノ他	神戶
同 二十六日	奉天丸	英國	一、二七三・三〇	二・三	食料品、洋雜貨	威海衛
同 二十六日	札幌丸	同	九八九・〇〇	三五〇・〇	同	門司
同 二十七日	神戶丸	同	一、三四五・九〇	五〇・〇	同	大連
同 二十八日	第二久美愛丸	同	一、五三六・〇七	一五〇・〇	同	上海
同 二十九日	第三寶運丸	同	四四九・四六	—	—	安東縣
同 二十九日	第二御崎丸	同	二一五・九〇	—	—	上海
同 二十九日	第十六共同丸	同	五四三・四五	四〇〇・〇	石炭、雜貨	芝罘
同 三十一日	益進丸	同	九一七・五三	一、〇〇〇・〇	綿絲	上海
同 三十一日	西京丸	同	五五八・九九	七〇〇・〇	雜貨	門司
同 三十一日	大智丸	同	一、五一・一六	二〇〇・〇	同	大連

二九

[illegible]

金 融

●銀塊並に爲替相場 (十月)

△銀塊 本月中の倫敦相場は四十九片半を支持し何等の變化なかりし

△爲替 は日本向電信爲替百六拾六圓貳拾五錢に始まり之を最高とし月半に至り百五拾參圓に低落せり而して此の相場を最低とし百五拾五圓五拾錢に本月を終りたり、本月は歐洲戰況日々聯合軍に有利なると獨帝退位風説あり且つ土耳其の單獨媾和提議の報ありて將に平和の近けるを聯想せしむるの材料日一日に増加したるを以て平和後は銀相場の暴落せんことを豫想し上海外國銀行の金融逼迫し常に賣爲替をなし市場を維持するの材料あるにも拘はらず大勢如何ともし難く相場漸落、最高最低の差實に拾參圓貳拾五錢に達したり而して上海市中支那人所有の銀は舉て金に交換せられたりとも云ひ得る有様を呈し爲めに同地金融逼迫極端に達し金利貳割五分乃至參割を唱ふるに至れり率て當地も其の影響と金銀交換の爲め金融緊縮するに至りたり又當地は未だ主要輸出品たる落花生及同油の取引時季に入らざるも新に小麥の輸出許可ありたるを以て續々之を輸出するに至り此く相當金額に上るべき輸出品目の増加を見たるは商人に取り非常なる幸なり

前記の通り上海に於ける金融の逼迫は上海向五日目拂手形相場を常に高値に保持し最高九百四十七兩を示したり濟南も亦近來正貨の缺乏甚しく從て同地より當地向並に上海向相場は非常に下落したり

主要貿易品概況 (十月中)

△輸入品▽

◎燐 寸

六月以來昂騰一方にして今尙ほ漸騰氣配を示せる燐寸市況は原料の騰貴と需給の均衡を失せる爲在荷益拂底を告ぐるのみにして市場の強氣を呼ぶに至れるが青島、明石兩燐寸會社の生産額は近來著しく増加し一日約五十噸以上に上れるも未だ地方の需要を満すに足らず月々一千噸内外の輸入を見つゝあるの狀態に在り而して内地市況を見るに近來當青島方面への輸出は減少せりと雖ども南支、孟買方面の買氣依然旺盛にして値段の如何に拘はらず買進み來れる一方軸木の缺乏により騰貴と生産高とにより相場は益躍進し安全六拾七圓黃燐六拾參圓を稱へ記録破りの高値を示し之を青島に輸入するときは三十二兩五匁見當に賣捌かざるべからざるも當地相場に支配せられ止むなく三十兩にて手放しつゝある有様なれば當地燐寸製造界活躍の餘地は充分なるものゝ如し亦濟南に振業公司ありて一日約五十噸の生産力を有するも原料の供給を日本内地に仰ぎ居る爲め青島製品に比し常に二三兩方の高値を示し居れば青島製品は此地方全體を範圍として活躍しつゝあり當分品不足は免かれざるべく市場強氣を持続し月末一箱三十兩見當にて保合へり

◎砂 糖

瓜哇糖は產地各種を通じ五拾錢方協定相場を引上賣止策を講じ

たる爲輸入著しく減少し市中在荷薄し獨り内地製三溫半より四溫半糖の需要旺盛にして相當荷動きあり市價亦強硬を持し茲一二週間常に三分乃至五分宛の上り氣配を示し來りたるが尙充分の強氣を含めり目下四溫二五糖七兩三匁原料糖銀拾六圓五拾錢より八拾錢見當を唱へらる然れど支那商中には次回の入荷による先安を見越し一般買控の姿なるも斯の如き足取確實なる相場は市中在荷の過不足により左右せらるゝものにあらず當分現狀維持に止まるべきも總體強氣充分なれば多少の昂騰を見るやも計り難し今其輸入數量を見るに九月九百八十三擔十月中旬迄千百三十擔にして尙盛んに輸入せられつゝあるも賣行旺盛なれば市中在荷は常に多からず多分年内は品不足の聲を絶たざるべし

◎米

本年の秋候好順なりしと各產地に於ける正米廻りの増加に伴ひ農家は現在の高値を利用して賣急ぎの態度を執り商人筋も亦先安を見越しして思惑を試むるものありて朝鮮及び九州產地筋の賣物優勢となり商勢頓に惡化し產地肥後八代に於ては參拾五圓見當を唱ふるに至れる矢先米穀關稅撤廢議決の發表せらるゝあり茲に市場は一變して一般賣進となり十月二十五六日頃の市場は遂に期米の暴落を告ぐるに至れり故に正米も全體弱氣一方にして益下向氣配を示し居れば當地商人も先安見越にて一般に買入を手控ふるに至り鮮米の輸入激減し九月皆無十月に入り僅かに六十噸の輸入ありたるに過ぎず之に反して江蘇米の輸入著しく増加せるは爭ふ可からず蓋し九月中旬頃より鮮米の賣行半減せるは顧客の大部分が江蘇米に走れる結果にして目下青島の需要は鮮米三江蘇米七位の割合と見て可ならん月末小賣相場を示

せば赤一俵金拾四圓四拾六錢同青拾四圓拾壹錢江蘇米一袋金貳拾圓七拾錢見當なり

◎木炭

内地に於ける木炭相場は諸處に於て炭價調節策の講せられつゝあるにも拘はらず毫も軟弱氣配無くデリ／＼上押氣配にて尙幾分の騰貴を豫想せしめつゝあり其爲め當地の市價も總體強氣配にて先月に比較すれば内地炭に於て一俵に付五錢より十錢の騰貴を見對州炭及河南省產木炭に於ては二十錢の昂騰を爲すに至れり而して今年中或は現在の強氣を維持しつゝ保合ふか又は幾分の騰貴を見るに至るべしと一般に觀察せられつゝあり十月中旬に於ける入荷は鳴戸洋行の二千俵を始め富士商會二千俵東記號三千俵合計七千俵あり是等の全部は對州炭にして皆帆船輸送に依るものなりと月末市中在荷は約一萬七千俵見當なるべく小賣相場左の如し

九州炭	檜大丸	六貫俵	三・五〇錢
同	同月小丸	同	三・三〇
同	同角上	同	三・二〇
同	同角	同	三・〇五
紀州炭	雜木丸淺	同	二・八五
同	同淺	同	二・六五
對州炭	同中丸	七貫俵	三・〇〇
河南炭	櫟	六貫俵	二・五〇

◎紙

暴騰に亞ぐに暴騰を以てして今尙天井知らずの勢を示しつゝある紙類は需要の激増に對して供給之に伴はず内地一般の品拂底は各市場の強硬を伴ひ就中新聞用ザラ紙、印刷用紙の如きは未

曾有の高値を示し斯界の恐慌を惹起するに至れり蓋し頃者原料藥品竝に勞銀の昂騰は其原因の一たるべしと雖も戰前専ら獨逸埃太利、瑞典諸國より供給せられたる製紙原料品の輸入杜絶せる結果更に之を米國に仰ぎ來りたるも供給潤澤ならずして激増せる需要を滿すに足らず斯の如き原料品の不足は直ちに市場在荷に影響し品棉底の聲は益々市場を困惑するに至りたるも之が補給の途無く加ふるに近年南洋、印度、支那方面への輸出著しく激増し益々需給の不均衡を大ならしむるに至りたるは一大原因ならむされど此の如き根強き騰貴は容易に緩和せられざるべく強氣は當分持續するものと見るの外なかるべし、客月二十日京都に於て開かれたる全國製紙聯合會に於て果然一割の値上げを議決するや市場は直ちに五分の値上げを斷行し爾來デリ／＼高値を示し居れば一割高迄上押するものと見て可なるべし茲に注意すべきは上海、天津に於ける米國製紙の目覺しき活躍にして非常の勢力を以て他國製紙との競争を開始せり價格低廉にして品質比較的良好なれば本邦製ザラ紙の如き競争上頗る苦境に陥るべしと當市十月末相場は左記の如くにして有光紙、ザラ紙の如きは寧ろ逆轉の奇現象を示せり

新聞用ザラ紙	連	金十二圓
印刷用紙	封	金卅六錢—四十二錢
模造紙	封	金四十八錢
有光紙	棚	銀百十圓
寸達ザラ紙	同	銀百十圓
米國製ザラ紙	連	金十二圓五十錢

◎煙草

東亞煙草製品中最も賣行好きは「スピア」を筆頭に百圓票、鳳梨朝日、敷島の數種にして就中「スピア」の如きは最も支那人の嗜好に適し賣價の引上も毫も影響せず毎月三百棚内外の賣行ありて頗る好評を博せり之に反し英米トラストの製品たる「バイレ—ト」「クロスカット」「スリーキャツスル」の如き次第に市場より退勢しつゝあるものゝ如し加ふるに同會社に於ては「バイレ—ト」級煙草に對し一箱三、四圓位宛の値上を爲しつゝあれば此處買氣を誘ふこと困難なるべし

◎木材

八月以來常在荷薄を訴へし北海道材は本月初め一、二材木商の著荷ありたるも忽ちにして賣拂種類によりては全く品切の有様にて月末相變らず品不足を告ぐるに至れり加ふるに海上時化時期に入り運賃著しく昂騰せると銀相場下落せる爲め相場は先月に比し一割高を唱ふるに至れるも建築界の需要益々旺盛にして市場は常に強氣を示し居れば暫くは強硬を免かれざるべし又鴨綠江材に就て見るに滿洲建築界の需要旺盛にして常に不足を告げつゝあるにも不拘時局の關係上北滿及ハルビン材の輸送絶われば盛んに吉林材、鴨綠江材を使用するに至り急激なる需要の増加は直ちに市價の騰貴を呼び現在安東に於ける鴨綠江材價は殆んど青島に於ける北海材に劣らざる高値を示すに至り當地支那商間に於ても一般買控たれば其輸入額も昨年の半數に過ぎず然れば益々在荷の拂底を招き市場の強硬を呼べるは寧ろ當然なるものゝ如し試に北海道材の月末相場を示せば

柱材其ノ他	白松材	上物(才)十五錢	並(才)十錢
赤松材	上無アシ三十錢	上小フシ二十錢—二十五錢	
並	十三錢		

板 材 白松材 正四分(坪)一圓六十錢 並四分一圓十錢
正六分二圓三十錢 八分三圓二十錢
一寸三圓八十錢

◎綿糸布

綿糸 大阪市場に於ては九月末に引續き活況を呈し未曾有の高値を維持し居りたるも當地は各店共警戒勝にして市場の成行に委せ手持を賣進みたる爲め相場は緊縮し延び得ざりしが其後中旬に近く勃國降伏に續て講和氣分濃厚となり爲めに大阪市場は一般に氣迷ひ前途を案じて亂高下を示したる上月末に至り益暴落を告げ三品先物三百五十圓臺を實現したれど其内引續き奧地支那商人の持荷悉く消化されたる上支那糸の在荷各地共逼迫を告げ來りたるを以て青島相場は漸騰を告げ左表の如く保合へり亦支那糸は七、八兩騰貴し殆んど上海と同鞘を呈するに至れり

△青島相場(十月中)

	十日	二十日	二十九日
紅 月(十六手)	一五五・半	一五八・半	一六五・
扇 面(十六手)	一六一・	一六二・半	一六七・
水 月(二十手)	一六二・半	一六二・七五	一六四・半
△大阪相場(十月中)			
扇 面(十六手)	三九〇・	三八七・	三八九・
福 島(二十手)	四〇三・	四〇一・	三九一・
△大阪三品相場(十月中)			
十 月	四〇八・〇〇	四〇〇・一〇	
十一 月	三九〇・九〇	三八六・九〇	三八五・九〇
十二 月	三八四・七〇	三八八・八〇	三七九・一〇
一 月	三八一・九〇	三七三・九〇	三七二・〇〇

二 月 三八二・四〇 三七〇・五〇 三六七・九〇
三 月 三七八・九〇 三六九・一〇 三六六・九〇
綿布 大阪市場に在りては月始め前二箇月以來引續き買進み來りし印度方面よりの轉賣ありたる爲め氣配一變軟弱に赴き本月中は始終下落の一本調子なりしが當地に於ても手持筋は賣急ぎたる爲め爲替高と相俟て相場は一昂一低の内に粗布、天竺、薄物等良好なる賣行を見たるも細綾物は全く不況の内に本月を終れり

	十日	二十日	二十九日
△青島相場 粗布九龍	銀 五・六五	五・五五	五・六〇
△大阪相場 同	金 一三・三五	一三・三〇	一三・二五

◎石油

日本油 にありては内地に於ける數回の値上げにより多少落付模様なるが「ス」社の賣惜しみの結果日、寶兩社への注文激増し品益々拂底の有様なる上重油、揮發油の需要旺盛となりたれば一般製油業者も薄利の石油を捨て之等の諸油に走るの傾向を生ずるに至り内地市場は近來稀なる在荷の拂底を告げ一層の強氣を示せり從て青島市場への荷廻り悪しく加ふるに爲替は逆鞘を示すに至り氣配頗る強硬となり一般賣惜の態度を採りつゝあるものゝ如し内地石油界の狀勢により察するに或は近く値上げの斷行を見るに至るべきか
外油 に在りては「スタンダード」「ライジゲサン」二社共相當の手持を有する本國に於ける兩社の「タンク」船が米國軍用の爲に引上げられ當分輸出の方法無き有様なれば止むなく營業方針を一變し賣惜しみの態度を採りたるにより奧地在荷の拂底を告ぐるに至り益々強氣を示し居れば或は近く第二回の値上げを斷行

するに至るべしと觀測せらる

△輸出品▽

◎落花生

愈々出廻り期に入れる落花生は一體に作柄良好なりし爲め品質も頗る佳良なるが米國の禁輸依然解けず各自氣迷の姿にありて買進む者無く近頃に至り二、三の契約を見るに至りたるも一般氣配混沌として商談捗々しからず濟南に於ては毎日三四十噸宛の出荷を見るに至れるも之を昨年の出荷に比較すれば約十分の一に過ぎず氣配頗る軟弱なり相場は青島上物七圓より六圓五十錢濟南六圓より五圓五十錢見當なるが要するに米國への輸出狀態と製油相場の高低如何により一昂一低を免れざるべし

◎落花生油

本品の當港輸出は昨年中二萬一千四百四十五噸に上るが愈々落花生の出廻りと共に市況頗る活氣を呈し來りたるも未だ大手合ありたるを聞かず一般に大手筋たる米國の注文を氣支ひつゝ手控居るものゝ如し月末迄に受取りたる實地注文は昨年の約四分の一位に過ぎざる有様なるが支那商間の轉賣中々盛んに行はれ思惑買に出づるもの多きも日本向爲替不味の爲堅實なる商談行はれず行惱みの態なり市價十五圓二十錢に生れ漸騰昨今十六圓五十錢より十七圓見當を唱へ居れり

◎牛肉

牛肉の内地輸出は從來微々たるものなりしが本年に入りてより著しく増加し殊に晩秋十月より翌春四月迄を最盛期とし盛に輸

出せられつゝあり本月中の枝肉輸出は内地行三百四十七頭大連行四十五頭計三百九十二頭分にして尙逐次増加の傾向を有し屠獸場に於ても輸出者の便宜の爲め場内設備を改良新設し極力獎勵的態度を採るに至りたれば旺盛なる内地の需要に向つて充分供給の途を講ずるに至るべく本年中優に一萬頭の内地輸出を爲し得る計畫なりと而して其輸出先を示せば大阪、神戸、門司、小倉、岡山、福山、尾道、八幡、東京、横濱等の各地に亘り居れば之が輸出の増加は幾分内地の市價を調節緩和するに至るべし曩に當地在住邦人四名が共同の下に山東生牛九十五頭を横濱に輸送したるも諸般の事情の下に失敗を招き中絶するの止むなきに至りたれば本年の枝肉輸出は益々旺盛を見るに至るべしと目さる尙本月中開治洋行により「マニラ」に輸出せられたる數量は千三百七十八頭にして之を前月の五百九十六頭に比し七百八十二頭を増加せり

◎コークス

内地に於ける「コークス」の需要は全然優良品に傾き普通品の輸出を阻止するの狀態に在り是れ普通品が硫黄分多くして製鋼製鐵用として不適當なるによるものにして優良「コークス」の需要は旺盛となり輸出は好況を持續せり然るに博山製「コークス」の大坂相場は噸金七十七八圓見當にして之を内地製品の金百十圓に比して甚だしく相違あり元來博山炭が優良「コークス」の原料として適當なることは非常の強味にして將來内地品同様の聲價を得るに至らば需要は著しく激増するに至るべし博山製優良品の青島相場は銀三十四五圓見當を唱へ之が最近輸出額は九月一千百八十三噸十月二千四百餘噸に上れり

◎桐材

輸出桐材は内地商況不振の爲め荷捌思はしからず當地商人も銀安を見越し一般買手控の姿に在るを以て月末相場は稍軟弱を示せり奥地よりの出荷は月々十萬才見當(内三分の一は河南材)なりしも本月は非常に減退の見込にして從て輸出も激減を免れざるべし現在市中在荷日本人持荷殆んど無く唯支那人持荷百二十噸を有するも現在の相場にては内地と出合はず買手皆無の姿なれば茲暫くは安保合にて取引行はれざるものゝ如し

◎鹽

本年灣鹽收穫高は豫想外にして平年に比し約二割の增收見込確實となりたるも一方内地の不作を控へ各商店共殆ど手一杯の注文を受取り居る上青島鹽業に於ては更に原鹽一萬噸再製鹽九千噸の増注文を受け取たれば市場益々品拂底強氣配一方にて埠頭置場渡四圓十錢見當を唱へ居れり埠頭滯貨は依然七萬噸を下らず當分鹽積取船の出入頻繁を加ふべし青島鹽業會社が政府との契約値段は門司渡再製鹽一圓八十錢原鹽一圓二十四錢八厘にして神戸、大阪渡は二十錢横濱四日市は三十五錢函館、新潟は四十錢の運賃補助を受くる約定なりと

◎牛皮

牛皮輸出は九月中僅かに四十噸に過ぎざりしも十月に入りてより噸に増加し上旬百四十二噸中旬百二十二噸を算し著しく出廻時期に於ける輸出の増加を示し市況稍活氣を呈し來りたるが現品の市場に出廻るを俟ち一般商人の遮二無二買進みたる爲め市

價を煽り立て大皮三十四兩中皮三十二兩小皮三十九兩と云ふ突飛の昂騰を示すに至れり毎年出廻時期に於ける市價の漸騰は確實なる足取りを辿り來りたるも本年は些か買競ひの爲急激に市價を促進せる傾向あり目先不安定の内に保合へり

◎石炭

浸水後に於ける排水作業完成せざる爲め博山採炭は今尙四五百噸に過ぎず而して昨今當地方の需要俄かに増加したれば市場は常に現品薄を訴ふるに至り輸出炭は著しく減少し九月に比し六千二百六十噸の減退を示せり然れど博山炭の上海香港輸出は昨年に比すれば約五倍に増加し尙三井、鈴木外數名の今春契約未輸出額七八萬噸を有するあり出炭量復舊の曉に於ては當然輸出の激増を來すべしと觀測せらる目下埠頭滯貨四千噸博山滯貨四千噸を下らず今九、十兩月に於ける昨年の輸出炭と本年分とを對照せば左の如く八倍強の増加を示せり

		昨年		本年		比較	
		九月	十月	九月	十月	比	強
地賣炭に就て見るに漸く需要の最盛期に入りたるに拘はらず前述の如く博山の出炭量減少せると撫順炭の輸入不如意の爲め何れも品薄氣配強硬を持続しつつあり而して山鐵の沿線賣炭價格改定に連れ青島方面への出廻潤澤となるべければ自然需給關係を緩和し沿線濟南方面は重に博山炭に青島方面は重に淄川炭の賣行を見るに至るべし青島に於ける各炭價を示せば							
淄川炭	塊	一・二・二〇	噸	一・一・八〇	噸	當	當
	塊	一・〇・一〇	噸	一・〇・六〇	噸	當	當
撫順炭	塊	一・六・〇〇	噸	一・六・〇〇	噸	當	當

日本炭 噸 當 一六・〇〇 松浦炭塊 噸 當 一三・〇〇
 博山炭 塊 上物 噸 一三・七三 普通品 噸 一二・六六
 同二號 一二・〇〇 一〇・六六
 切込 九・三三 八・三三
 粉 八・三三 七・六六
 坊子炭 塊 一〇・一〇
 切込 六・八〇

◎麥稈眞田

奥地より新物未だ出廻らず商況至て閑散青島に於ては纏まりたる商談行はれず唯天津に於て約千俵の取引ありたるを聞けり然れど向一箇月を出でず新物の出廻りを見るべきを以て外國商館の買進みと共に相當の値付あるべきも目下各種其下向氣配にして勉邊五ミリより八ミリ九十兩原草八十六兩見當なるべし

◎小麥

輸出解禁當時は一時活況を呈し相當荷動きあり相場は銀四圓十五錢を唱へ居たりしも内地期米暴落に駭ろかされ大阪沖渡金九圓三十錢より八圓に漸落し尙弱氣を示すに至り當市場も漸落四圓五錢と下押し安保合の姿に在り然れど講和氣分濃厚となりし爲め内地麥粉金四圓七十錢に小麥一石(二百五十斤)金二十二圓五十錢に落込みたれば製粉筋一體の買見送りとなり加ふるに銀價の先安を見越し内地の商談全然行はれず從て青島市場も著しく氣配軟弱を示し取引行はれず保合姿に在り要するに講和氣構と期米暴落に亞くに製粉安を以てし旁米穀關稅撤廢による小麥業者の關稅免除運動等もありて益々市況を不味ならしめたるを

以て勢ひ内地相場は多少の下落を見るに至るべしと目さる、濟南方面の市況を見るに小麥産地たる黃河沿岸並に禹城方面は土匪出沒し全く奥地との連絡を缺ぎ濟南相場の奥地に徹底せざる爲め出荷思はしからず價格も常に青島と比較し二三十錢高を唱へ居れるが内地商況不振と共に青島市況と終始し昨今商談全く行はれず寧ろ不振の態なり

内外經濟時報

米國に於ける戰後經濟施設に就て

最近米國商務省内外通商局に於て戰後各國に於ける經濟施設改造計畫に關する調査書を作製し商務長官に提出せる趣を以て其要領新聞紙に掲載せられたる處該通商局長の示達文要旨左の如し
 戰後少くも當分の間各交戰國は其資源開發上専ら持久の策を取り敵國側の利益を排除すべきこと疑無し聯合國側に於ても其商工業を恢復し財政の均衡を圖ることに努むべきが各自共通の利益を考量に入れ一定の方針を定むること必要なるべし米國に於ては宜しく參戰の動機に顧み戰後に於ける通商上共通の利益を重んずるの精神よりして適當の時機に於て聯合國側との間に了解を設くるの準備を爲すこと肝要なるべし尤も今日に於て將來を拘束すべき方針を定むることを爲さず専ら材料を蒐集し且つ教育制度調査機關等に就き根本的措置を講ずること必要なるべし尙ほ此等の事業は統一を期するため政府事業と爲すこと然るべく且つ政府當局は常に經濟問題に關する責任を自覺すること要す云々尙ほ本文中要點左の如し

(一) 交戰國側も戦後は商工業に對する政府の管理又は參加著しく擴張するに至るべしとの所見に一致す右管理又は參加は戦後改造時代に止まらず長く常態として繼續すべし商工業に對し政府の參加を希望するの運動は戦争の結果勞働階級の政治的勢力増進すべしとの見込を反映するものにして獨逸の地主黨も或る程度まで此運動に賛成なるは注意すべし經濟問題に關する政府の權限を擴張せんとする論には尙ほ(四)政治的必要に基く經濟的持久策(五)重要な原料及生産品に對する國家の管理なる二個の觀念あり右は孰も英獨兩國に於て特に重きを置かれつゝあり

(二) 既存政治同盟は敵國側に對する味方の經濟的勢力を鞏固にする目的を以て漸次經濟的同盟と化するに至るべし彼の巴里會議及中歐帝國間に於ける經濟同盟に對する熱心なる運動の如き其一端を示すものなり

(三) 戦後經濟施設として相當機關を設け工業及財政集中策を企畫する一種の運動英獨兩國に於て行はれつゝあり同時に英國に於ける領事制度を改革し佛、獨、奧三國に於ける水運を擴張し英佛に於ける信用制度を改革し尙ほ一般に海運業を恢復するの計畫もあり

(四) 經濟問題に關する政府の參加論は獨逸に於て最も熱心に論議せられつゝあり右は二點に分たる(a)經濟上の理由に基く過渡時代に於ける政府の管理(b)財政上の理由に基く永久的管理是れなりシーメンス シュツケルト副社長ハルラー(Haller)の如きは過渡時代政府に於て(イ)船腹管理(ロ)輸入割當及禁止(ハ)對外貸付管理(ニ)原料及製品輸出管理(ホ)輸入品分配管理を必要とするの意見を發表せり又獨逸經濟省の意見にては獨逸

は一切の商業を管理するの必要を認め居らざるものゝ如く單に爲替關係及船腹調節に就き或る程度の干涉を爲さんとするものの如し(十月二十八日石井大使電報、通商公報所載)

對上海取引所反對運動

上海の支那商にて組織する商幫協會は此程突然集會を催して本邦人の創設せし上海取引所は國際法律上抗拒すべき者と決議し其結果北京政府に向て日本公使と嚴重の交渉を開始せよと電請したり今其内容を聞くに曰く日本人の上海に於て創設せる取引所は國際法律上當然抗拒すべき性質を有す抑も各國皆な此種の會社あり且つ特殊法規の下に在て國家の許可を得るにあらざれば設立する能はざる者に屬す而して日本の取引所法に該國臣民にあらざれば取引所會員或は仲買人たるを得ずとあり歐米各國も亦然り豈に我が中國の獨り外人をして我領土内に創設せしむるの理あらんや上海は各國通商の埠なりと雖も然其領土權は仍ほ之を操るに我より爲すべし今日本人の上海取引所を設けたるは則ち我が國權を侵し我か商利を攘るなり此れ果して讓るべきか將た讓るべからざるか云々、數日前特に中華國貨維持會、華商旅滬維持會と聯合して政府に向ひ我か公使と嚴重なる交渉を開始されしと電請したるが如し一面には上海南北商會及び全國商會聯合會に向ひ一致行動を執りて上海取引所を抗拒すべく請求したるやに聞けり此反對運動は那邊まで瀾漫するや今より推測し難し(上海日本人實業協會週報所載)

關東州關稅改正意見

關東州關稅改正問題は既に數年來の宿題にして去二年中其の改正意見を當局に提出したる事あり爾來都督府は主任者をして引續き調査研究に努めさせ世界の變動に鑑み日支貿易の趨勢に際して調査の歩を進ましめつゝあり今回同府は拓殖局よりの意見を徵せられたるを機として十一月五日長官代理地方殖産兩課長其の他同問題に關係ある人々等民政部に參集して豫て起案中なる同改正意見書に就き審議會を開く筈なり其の改正の内容は要するに日支貿易の圓滑發達を期する目的より屢々彼我の問題に上れる密輸出入脱稅の防遏國境稅關の如き障壁となるが如き機關を撤廢し日支兩國關稅の收入を増加する事又日支貿易の活潑發展上總稅務司の權限が我が勢力範圍内に收むる實益増進を主義とする事等にありて關東州及び滿蒙貿易の自由を進暢する爲めに代價稅拂戻し及び消費物貨稅を總て一律に有稅たらしめんとするにあるが如し(滿洲日日所載)

滿鐵埠頭經營方針

曩に大連商業會議所の埠頭保管料問題特別委員會より滿鐵に致したる質問書に對する滿鐵側の意嚮を聞くに右質問書は(一)滿鐵の埠頭經營方針は從來と變更されたる如何(二)然して今後の埠頭荷物膨脹に従ふ收容力は何れの方面に設備の方針なるかと云ふ保管料問題とは直接の交渉を有せざるものなりしが經營方針如何は滿鐵の保管料問題と實質上に於て大なる關係を有するものなれば保管料問題の正當解決には當然知るを要すべき重要事項なりし然るに滿鐵今回の回答は右質問に對しては至つて正面的回答を避け(一)埠頭荷物保管の方針は海運及び鐵道殊に海陸聯絡の荷物を中心として更に滿洲經濟の中心地たる大連に於

ける一般荷物に對する倉庫營業をも兼ねたるものなれども海陸聯絡荷物に對するものが本位なる爲め此の方面の必要あらば倉庫方面の限縮は勿論なり埠頭擴張は(二)第二第三埠頭を作り背後に八萬坪の新保管地を設けると共に寺兒溝方面敷地の大擴張を爲す豫定なりとて回答し來りたる模様なるが質問の方針變更云々とは全く問題を別にし居れるも此は滿鐵の埠頭經營方針の表明なれば一般に重視し得べきものと云ふべし商業會議所は右回答を特別委員會に配布し二日午後四時より會議所に於て委員會を開き今後の態度に就て協議したるが結局折衷案を以て交渉を開始するに決せり(朝鮮新聞所載)

高梁價返還訴訟

七月限高梁受渡問題に對し買方聚成祥は曩に證據保全の提起を爲したるも當局其他の斡旋に依り合意上の一部解合に調印を了し無事問題解決を告げたりとせられたるに又復此程來解合無效賣方政記以下の違約之れに伴ふ代金全部の返還請求を爲し信託會社を相手取り訴訟を提起し來る十九日辯論開始の筈なるが之れに就き聚成祥側は一旦解合調印を爲したるも此解合たるや轉賣買戻の方式を取るべき取引所が既に其手續を爲さるに拘らず信託會社は專斷に之れが精算を爲せるは違法の處置にして且つ受渡物件中の百餘車は當然有保險物ならざる可らざるに此に留意せずして無保險物を提供したる賣方も亦た違約の行爲にして其損害尠少ならず依て此際支拂代金の返還を乞ひ受取物件中他に轉賣せるものは相當代金を控除し其差額の支拂を請求するものなりと云へるが一方信託側は例へ解合の正式成立が轉賣買戻の形式を取るものと云ふも從來斯る例なきのみならず一旦納

得して受授せる物件を今日に至り殊更に苦情を申立つるが如きは常識あるものゝ爲し得べき事に非ず又代金返還に就ても品物は戻さず代金のみの返還を云爲するは甚だ手前勝手の言分にして賣方の違約信託會社の違法行爲等は全然荒唐無稽の言にして信託は從來の慣例を以て正當と信じ事務の管掌に依れるものなれば聚成祥の理由は何等の根據とならざるべしとの見解なるが尙ほ此訴訟の發端に就て某市場立人筋の語る所を綜合するに聚成祥の意思が那邊にあるや詳知せざるも要するに自己に於て解合を認め且又政記以下賣方の提供物件を受取り既に數箇月を経過し其品物中他に轉賣を爲し居れるものあるに拘らず單に違法なるが故に支拂代金の返還を迫るは甚だ謂れなき様にも解釋せらる尤も說する所に依れば聚成祥は必ずしも茲に意志を有するや否や疑問とせらるゝが之れには何か裏面に深き事情の纏綿せるものに非ざるか兎に角此の訴訟の成行が如何に進展するや一に公明なる判廷に俟つ所なるも恐らく無意味の争ひに過ぎざるべしと觀測せるもの少なからず同時に此判例の將來に關して甚だ興味を以て迎へ居るものゝ如し(大連)

滿蒙毛織著手

今回の歐洲大戰争の實例に鑒み我國にては羊毛及び毛織物の獨立供給を急務なりとし拓殖局にては之が供給方法に就き講究せるあり又南滿鐵道會社にては羊毛供給の爲め綿羊飼育に就き研究中なりしが横濱の茂木惣兵衛氏又頗る之に關し講究する所ありし結果滿洲蒙古に於て產出する羊毛を原料として南滿地方に毛織物製造會社設立を企劃し一方には東京絹毛紡績會社にても亦之に著目し相共に關東都督府に向つて之が設立許可を出願せ

るより都督府の肝煎にて南滿東京絹毛茂木協同一致して經營する事となり更に東洋拓殖が之に参加し同社を中心とし四者發起人となり資本金一千萬圓を以て滿蒙毛織株式會社を起し本社を奉天に設立し支那内地及び滿蒙地方より原料羊毛の供給を受けて毛織製造を計畫するに至り而して二十萬株中東洋拓殖が四萬株南滿が一萬五千株を引受け殘餘十四萬五千株中十二萬五千株は茂木氏東京絹毛及び其後協同に加入せる大阪方面の有志にて引受濟みとなり殘餘二萬株は本月十日過ぎ發表し一般公衆募集する由發起には日比谷平左衛門、和田豐治、阿部幸之助諸氏も參加すべく又枝師長には前千住製絨所長たりし加藤定二郎氏就任經營の衝に當る可く内定せり會社成立せば都督府より補助補助給を受くる内許可を受け居れる由

花生米と花生油

濟南の落花生米(無穀物)は近來漸く日々三四十噸宛市場に出廻り始めたるが例年に比し二十日以上出遅れ且つ其數量亦未だ例年の十分の一にも達せざる狀況なり之れ米國の輸入禁止により取引を手控へたること其一大原因なるべしされど加奈陀方面は其轉入毫も差支なしとの事なるを以て之れが輸出には若干の繁雜を免れざるべきも漸次同方面に仕向けらるべきもの尠からざるべしと觀察され最近邦商に在りてもポツト現物及び先物の手合せ行はれ居れり又落花生油は米國行輸入差支なきを以て近く相當の取引行はるべく目下の市場唱へ相場は左の如しと

南貨落花生米	百斤	銀六元
北貨同	同	銀五元五十仙
落花生油	同	銀十四元見當

本年朝鮮製鹽高

天候不順の爲め今年度朝鮮滿洲に於ける一般製鹽業は其の成績頗る振はざるが如く一般に觀測され朝鮮の如きも前年度に比較して八九分減の見込なりしが今某所に達したる本年度四月以降十月迄に於ける朝鮮官鹽製出高を聞くに一町步當り七萬四千三百五十四斤總額七百六十七萬三千三百五十斤にして之を前年同期間に於ける製出高一町步當り八萬四千八百九十六斤總額八百七十六萬二千五百四十斤に比較すれば案外の上出來にて今年は約六七分の減少を見たるのみなりと

上海九月中商況

◎銀塊及爲替相場 銀塊相場は英米共に動かず爲替建相場亦八月末の儘半月を経過せしが十六日に至り突然五志六片(六片高)に引上げられ其後又變動なくして九月を終れり實際相場は強氣を續け十六日の突飛なる引上も其實市場に従ひたるに過ぎず引上の後も猶一片乃至一片半高の取引を見たるが月末に近づくに従ひ稍々弱氣味に化し建相場のみにて取引せらるゝに至りしが建相場も引上前はノミナルを附し後には之を附せざるに至り香上銀行も建相場を以て市場を牽制するの難きを悟るに至りしものゝ如し九月中銀塊相場、電替相場の移動を示せば左の如し

銀塊

倫敦

日本

紐育

電信爲替相場

自一日至十四日

四九^片_{1/2}

五・〇

四五

一一八

十五日(日曜)

四九^片_{1/2}

五・〇

四五

一一八

自十六日至三十日

四九^片_{1/2}

五・六

四一^片_{1/2}

一三〇^片_{3/4}

◎金融

全月を通じて逼迫に傾き米國より銀塊の輸入ありしも

猶ほ之を緩和するに至らざりしが爾今米銀の輸入全くなかるべく且つ金融繁忙の秋に迫れるを以て一般金利の昂騰を見る蓋し疑なきところに屬す墨銀相場の暴騰は金塊相場十日前後の昂騰香上銀行爲替相場のノミナルを見て其當分變動なかるべく從て金塊市場解合の場合には其規約により假令ノミナルにても香上相場を基礎としたる相場に依ることなかるへしとの臆説流布せられたるに起因するものとす尙ほ當月中銀の移動を示せば左の如し

△輸移入

銀塊	米國より	五、五六四 ^塊
ベソ	同	九四〇、〇〇〇 ^{ベソ}
墨銀	南京より	二、四八〇、〇〇〇 ^弗
	其他より	三二〇、〇〇〇

△輸出

兩銀	南京へ	二、〇二〇、〇〇〇 ^兩
同	其他へ	二五〇、〇〇〇
墨銀	通州へ	二、三〇〇、〇〇〇
同	安南へ	三〇〇、〇〇〇
同	其他へ	五二〇、〇〇〇
銀塊	香港へ	三五 ^塊

△八月末上海在銀高

外國銀行	兩銀	二〇、〇四〇 ^{千兩}	墨銀	八、八六〇 ^{千兩}	銀塊	三九五 ^{千兩}
支那銀行及錢莊	計	二、六一〇		五、一二〇		

△九月末上海在銀高

外國銀行	二一、七八〇	七、八四〇	二、二五六
支那銀行及錢莊	二、四八〇	五、二五〇	—
計	二四、二六〇	一三、〇九〇	二、二五六

次に二日より三十日まで墨銀及銀塊相場の移動を示せば如左

	二日	九日	十六日	二十三日	三十日
墨銀相場	三、九七五	三、四七五	三、四〇〇	三、三七五	三、三六五
金塊相場	二、四四〇	二、三三〇	二、三〇〇	二、二八〇	二、二六五
		最高	最低		
墨銀相場	三、九七五	三、四七五	三、三六五	三、三六五	三、三六五
金塊相場	二、四四〇	二、三三〇	二、三〇〇	二、二八〇	二、二六五

◎一般商況 仲秋節を目前に控へたる秋季に入り一般貨物の需要期となりたると豫て懸念せられたる大總統選舉も無事に解決し南北和平説の流布せられたるに依り商況活氣を呈し又銀價の昂騰は購買力の増進となり更に活潑の度を進めたるも船腹の不足は物價の奔騰と相俟つて尠からず取引を阻害せり當港取引貨物の大宗たる綿絲は米綿、印綿の高値を受けて上昇したるも又其反動にて下向し砂糖は銀高に伴ひ下押し引合相場となり市場賑ひたるも瓜哇糖昂騰の報あり手合困難なるに至れり棉花の輸出は爲替相場の不利なると支那商の賣惜とにより商談行惱みの形裝に在り米輸解禁説流布せられしも未だ其實現を聞かず僅かに山東省小麦の輸出特許ありしも船腹其他の關係により未だ全部の積出に至らず爲めに大なる影響を受けることなかりき月末に至りては仲秋節を過ぎて閑散となり殊に金融益逼迫一層商況を不振ならしめたり(上海有吉總領事報告一節)

青島雜誌 (十月中)

◎鐵道倉庫業規則實施 鐵道倉庫業規則は十月五日より施行する、事となるが改正の目的は今回濟南鐵道倉庫の開設並に將來沿線に倉庫業開始の場合を豫想して業務の統一を期するにあり大體舊青島埠頭倉庫營業假規則と大差なく辭句の修正に止るも唯其第二十一條第三項「一部出庫の場合に於て鐵道部の指定したる證券所持人に限り其承認書を以て證券の呈示に代ふる事あるべし」の規定は舊規則に見ざる所にて之に依て一部出庫の場合寄託者は多大の便宜を得べし次に料金率に就て見るに保管貨品目に於て帶土器塗料其他十餘點を追加し又倉敷料は權衡上幾分低減され殊に入庫料出庫料積換料は倉庫の收入が倉敷料を主位とすべきに顧み實費を基礎として大に輕減されたり

◎大星卵粉公司賣出期 先月十五日操業を開始せる大星公司卵粉工場の昨今日の原料消費高は五六萬個に上り既に製品も市場に販賣さる可く包裝されあるも當地には洋式に依る卵粉の取扱店無く延て相場の標準を立る事困難なる爲注文輻輳せるにも拘はらず未だ賣出を見るに至らざる由にて同社の佐々木政治氏は之れ等の用務を帯びて上海に向ひたれば多分本月中頃には賣出の運びに至る可しと

◎李村の鹽豚移出有望 管内より移出する鹽豚は既往十數年來の歴史を有し獨逸租借當時には更に多數の移出を見たるも其後販路を他地方に奪はるゝと共に南北市場の相場の變動其他諸種の原因より頓に移出數を減少せるが民政施行後李村民政署にて極力獎勵の途を講じたる結果本年は開始後僅かに二週間にして

昨年度總移出數を超過するの狀態に在り此の勢ひを以てせば鹽豚の移出は將來多々益々有望となるべきが尙斯業の發展を期するが爲には沙子口に於ても屠殺を許可するを便利とし目下當局にて研究中なり因に占領後の移出概況は

大正四年五〇二七▲同五年二一三〇▲同六年一一九三(以上孰れも自九月至十二月)▲今年九月中一一九四

にして逐年減少の傾向に在りたるも本年に入りては之が挽回の勢ひを呈せんとしつゝあり

◎山東省日支通信聯絡 彼我委員間に反覆交渉中なりし山東省にける日支通信聯絡は此の程漸く議了し十日午後二時を以て愈々調印の運びに至れり之が實施は十一月一日以降なりと

◎山東省の會社及資本 民政部の調査に依れば民國三年一月民國公司條例發布以降同七年六月に亘り支那農商部に於て登記發表せられたる會社の内山東省に屬するものは合計二十三社にして其資本總額は銀四百九十二萬八千圓なるが資本金の點より見れば芝罘の張裕釀酒公司(二百萬圓葡萄酒製造)は其筆頭にして政記輪船公司(百二十萬圓芝罘)之に次ぎ其他は何れも二十萬圓以下なるが今各社の商號目的資本額を列記すれば左の如し

(但し新益輪船政記輪船榮業煙捲の三合名を除けば他は株式組織なり)

會社名	事業別	資本額	所在地
華街小輪	船舶運輸	一〇〇〇	威海衛
福利肥皂	石鹼製造	一五〇〇	芝罘
振業火柴	燐寸製造	二〇〇〇	濟南
興順福機	製麵	五〇〇〇	濟南
張裕釀酒	葡萄酒製造	二、〇〇〇〇	芝罘
新益輪船	船舶運輸	八〇〇〇	芝罘
政記輪船	船舶運輸	一、二〇〇〇	芝罘
華衛小輪	船舶運輸	一、二〇〇	威海衛

大東製帽	參祥帽製造	三〇〇	濟南
濟南電話	電話電鈴	一〇〇〇	濟南
生命電燈	電燈	一〇〇〇	芝罘
美業煙捲	卷煙草製造	六〇〇	歷城縣
裕華煙捲	同	五〇〇	濟南
豐年麵粉	製麵	一〇〇〇	芝罘
普利玻璃	硝子器具	三〇〇	濟南
瑯琊草帽	麥稈帽製造	二〇〇	鄒城
交通輪船	船舶運輸	二〇〇	芝罘
東亞罐頭	罐詰製造	二〇〇	福山縣
公通輪船	船舶運輸	二〇〇〇	芝罘
煙臺商業	銀行	二〇〇〇	福山縣
濟豐麵粉	製麵	二〇〇〇	濟南
山東成業	造紙	五〇〇	濟南

◎山東製軸公司開業期 山東製軸公司の建築工事は豫定の如く進捗し最先に著手せる臺東鎮街道に面せる工場一棟は去る十六日上棟式を舉げ本月一杯には竣工の運びに至る可く其他の事務所土塋等も十一月中頃に落成の筈にてモーターさへ豫定通り到着せば十一月中に製軸を開始し得べきも其著期不確定なる爲め開業も或は多少遲延を見るならんも十二月上旬より遅るゝが如き事なかるべしと

◎山東葉煙草と買付高 沿線二十里堡を中心として栽培されたる葉煙草の數量及び英米南洋東亞三社の買收高は正確に知る能はざるも英米煙草が十一月より來年二月に亘りて山鐵大連汽船の聯絡輸送に依るべきものは七百車一萬四千樽にして一樽の斤量は八百斤容積噸は二噸なれば合計二萬八千噸に上る計算にして此二萬八千噸は即ち同社本年の買付數量なるべし而して英米煙草會社の山東葉煙草は從來も山鐵大連汽船の聯絡輸送に依り

來れるも到着地たる上海の倉庫の都合等にて種々の不便ありたるを以て本年は會社鐵道汽船三者代表者會合の上契約書を交換し鐵道は一週間に四十車八百樽を埠頭に輸送し大連汽船は定期船益進丸の外新たに東晃丸千八百噸を上海航路に就かしめ之に依て十一月より來年二月迄に合計七百車千四百樽を責任を以て輸送すると共に會社に於ても到着次第入庫せしむる手順を整ふる事となれりと

◎青島浦鹽間海運關係 青島浦鹽間は從來に在りても牛其の他の特產品輸出に依りて相當深き關係を持續し來れるが近時浦鹽方面に於ける邦人勢力の伸張と共に一層關係を密にし來れる傾きあり且つ出稼苦力の輸送其他海運上の交渉淺からざるものあるより同方面の定期航海も自然有望視せらるゝに至り未だ具體的の計畫こそ成らざるも關係筋にては目下調査の歩を進めつゝありと

◎人事

- △黑江大佐赴任 守備第二大隊長より高田聯隊區司令官に轉任の黑江步兵大佐は七日臺北丸にて赴任
- △夏秋總務部長 青島守備軍民政部總務部長夏秋十郎氏は二日西京丸にて東上
- △本郷大將榮轉 軍司令官本郷大將は二日東上滯京中軍事參議官に榮轉され二十四日一旦歸青、十一月一日西京丸にて出發赴任の途に就かれたり
- △鎌田榮吉氏來 鎌田榮吉氏は五日鐵路濟南より來青七日再び濟南經由南清方面に向へり
- △グリーン少將 馬尼拉駐屯軍司令官グリーン少將は八日ワレン號にて來青同夕同船にて天津に向へり
- △權量氏等出發 日支通信聯絡交渉のため久しく當地滯留中の權量氏一行は十二日夕出發鐵路北京に向へり
- △吳道尹氏發程 膠東道尹吳永氏一行は二十日第十六共同丸にて芝罘に歸任せり
- △深澤汕頭領事 汕頭領事深澤日新氏は二十六日神丸にて來青同日同船にて上海

に向へり

△長尾理事來青

八日夕再び鐵路北行せり

△モリソン博士

上せり

鐵道院理事長長尾半平氏一行は二十七日鐵路濟南より來青二十七日鐵路來青三十一日鐵路北

法 規

軍軍令第三十七號

青島鹽業規則左ノ通定ム

大正七年十月七日

青島守備軍司令官 本郷房太郎

青島鹽業規則

第一條 鹽田ヲ開設セムトスル者ハ軍司令官ニ願出テ許可ヲ受クヘシ

第二條 前條ノ許可ヲ受ケタル者工事ニ著シタルトキハ十日以内ニ軍司令官ニ届出ツヘシ

第三條 開設ノ許可ヲ受ケタル鹽田ノ工事竣功シタルトキハ其ノ使用前軍司令官ニ願出テ鹽田使用ノ許可證ヲ受クヘシ

第四條 鹽田使用許可證ヲ有セサル者ハ鹽田ヲ使用スルコトヲ得ス

第五條 鹽田開設ノ許可ヲ受ケタル者及鹽田使用許可證ヲ有スル者ハ其ノ土地ノ境界ニ標木ヲ建設スヘシ

第六條 鹽田使用許可證ヲ亡失毀損シ又ハ記載事項ニ異動ヲ生シタルトキハ其ノ再下付又ハ名義書換ヲ願出ツヘシ

第六條 鹽田ヲ使用スル者ハ使用料一副斗子ニ付一箇年銀四圓ヲ納付スヘシ
一副斗子ハ二町歩トス

第七條 鹽田開設ノ許可ヲ受ケタル者官ニ於テ指定シタル期間

内ニ工事ヲ竣功セサルトキハ其ノ竣功セサル部分ニ付許可ヲ取消シ之ヲ返還セシム但シ天災其ノ他避クヘカラサル事由ニ因リタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第八條 官ニ於テ土地ノ整理其ノ他公益上必要ト認ムルトキハ鹽田開設ノ許可ヲ取消シ其ノ竣功地ノ一部又ハ全部ヲ返還セシムルコトアルヘシ

第九條 鹽田ノ開設又ハ使用ヲ廢止シタルトキハ三十日以内ニ軍司令官ニ届出ツヘシ其ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ在リテハ鹽田使用許可證ヲ届書ニ添附スヘシ

第十條 鹽田ノ開設若ハ使用ノ許可ヲ受ケタル者第七條又ハ第八條ニ依リ其ノ土地ノ返還ヲ命セラレ又ハ自己ノ都合ニ依リ其ノ開設若ハ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テ其ノ土地ニ建物其他ノ物件アルトキハ官ニ於テ指定シタル期間内ニ之ヲ撤去スヘシ其ノ撤去ヲ爲ササル當該物件ハ官ノ所有ニ歸屬ス

第十一條 二箇年以上引續キ製鹽ヲ休止シタルトキ又ハ鹽業ニ關スル法令若ハ法令ニ依ル官ノ命令ニ違反シタルトキハ鹽田使用ヲ禁止スルコトアルヘシ

前項ニ依リ使用ヲ禁止セラレタル者ハ直ニ鹽田使用許可證ヲ返納スヘシ

第十二條 第七條第八條又ハ前條ニ依リ鹽田開設ノ許可ヲ取消シ使用ヲ禁シ又ハ其ノ土地ノ返還ヲ命スルコトアルモ官ニ於テハ賠償ノ責ニ任セス

第十三條 鹽田ノ使用ハ軍司令官ノ許可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ相續又ハ讓渡スルコトヲ得ス

第十四條 鹽田ノ使用方法ヲ變更セムトスルトキハ軍司令官ニ

願出テ許可ヲ受クヘシ

第十五條 苦汁ノ蒐集ヲ爲サムトスル者ハ軍司令官ニ願出テ許可ヲ受クヘシ

公益上必要ト認メタルトキハ前項ノ許可ヲ取消シ又ハ許可ノ條件ヲ變更スルコトアルヘシ

第一項ノ許可ヲ與タルトキハ其ノ都度之ヲ告示ス

第十六條 鹽ノ再製又ハ鹽化工業ヲ爲サムトスル者ハ軍司令官ニ願出テ許可ヲ受クヘシ

公益上必要ト認ムルトキハ前項ノ許可ヲ取消シ又ハ許可ノ條件ヲ變更スルコトアルヘシ

第十七條 鹽ヲ輸移出セムトスル者ハ其ノ豫定數量ヲ具シ軍司令官ニ願出テ許可ヲ受クヘシ

第十八條 前條ノ許可ヲ受ケタル者ハ輸移出ノ都度青島民政署長ノ原產地證明ヲ受クヘシ

第十九條 鹽ヲ輸移出セムトスル者ハ一擔ニ付銀三錢ノ鹽稅ヲ青島民政署ニ納付スヘシ

第二十條 軍司令官ハ當該官吏又ハ吏員ヲシテ隨時鹽田若ハ第十六條ノ工場ヲ臨檢セシメ又ハ必要ニ應シ帳簿其ノ他ノ物件ヲ檢査セシムルコトアルヘシ

第二十一條 鹽ノ輸移出業者ニシテ濫ニ鹽ノ價格ヲ引上ケ其ノ他公益ヲ害スヘキ行爲アリト認メタルトキハ其ノ輸移出ノ許可ヲ制限シ又ハ之ヲ取消スコトアルヘシ

第二十二條 本令ニ依ル出願者ニシテ軍管内ニ居住セサル者ハ管内居住者ニ就キ代理人ヲ定メ軍司令官ニ届出ツヘシ

第二十三條 左記各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ出願ヲ無効トス

一 鹽田ノ開設又ハ使用ニ付實地調査ノ際當該官吏又ハ吏員ヨリ立會ヲ要求セラレ之ニ應セサルトキ

二 出願者又ハ其ノ代理人ノ所在不明ニシテ本令ニ依ル許可書又ハ鹽田使用許可證ヲ發送シタル日ヨリ六十日ヲ經過スルモ之ヲ交附スルコト能ハサルトキ

三 書類ノ訂正ヲ命シタル後六十日ヲ經過スルモ訂正ヲ履行セサルトキ

第二十四條 第一條乃至第四條、第六條、第九條、第十一條第二項、第十三條乃至第十九條、第二十二條ニ違反シタル者又ハ第二十條ノ検査ヲ拒ミタル者ハ二年以下ノ監禁又ハ銀千圓以下ノ罰金ニ處ス

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令ハ施行前官ノ許可ヲ受ケタルモノハ本令ニ依リ許可ヲ受ケタルモノト看做ス

軍軍令第三十八號

青島鹽業組合規則左ノ通定ム

大正七年十月七日

青島守備軍司令官 本郷房太郎

青島鹽業組合規則

第一條 製鹽業者及鹽販賣業者ハ本令ニ依リ軍管內ヲ以テ區域トスル鹽業組合ヲ設置スヘシ

第二條 軍管內ニ於テ組合員ト同一ノ業ヲ營ム者ハ組合ニ加入スヘシ

第三條 組合ハ左ノ事項ヲ目的トス

一 製鹽業ノ改良發達
二 荷造及取引ノ改善

三 鹽ノ價格ノ公定

四 勞働賃銀ノ協定

五 戎克ニ依ル運送賃ノ協定

六 使用人ノ爭奪防止

七 出願届出ニ關スル代辦

八 紛議ノ調停

九 營業上ノ弊害矯正

十 販路其ノ他ノ調査

第四條 組合ニ製鹽及販賣ノ部會ヲ設ケ利害相反スル重要事項

ニ付テハ各部會ノ議決ニ依リ聯合協議會ヲ開キ協議決定スヘシ

聯合協議會ニ於テ前項ノ協議決定ニ至ラサルトキハ其ノ事由ヲ具シ官ノ裁定ヲ求ムヘシ

第五條 組合ノ定款ハ組合員タルヘキ者三十人以上ノ同意ヲ以

テ之ヲ作製シ軍司令官ノ認可ヲ受クヘシ

定款ノ變更ハ軍司令官ノ認可ヲ受クヘシ

第六條 組合ニ左ノ役員ヲ置クヘシ

組 長 一人

副組長 二人

評議員 若干人

組長、副組長及評議員ノ任期ハ三箇年トス

第七條 組合ノ經費豫算ハ組合總會ノ議決ヲ經テ軍司令官ノ認可ヲ受クヘシ

第八條 組合ノ事業成績及經費決算ハ毎會計年度後二箇月以內

ニ軍司令官ニ報告スヘシ

第九條 第三條第三號ノ事項ヲ議決シタルトキハ第四條ノ決議

録ヲ添附シ軍司令官ノ認可ヲ受クヘシ

第十條 組合總會ニ於テ議決シタル事項ハ其ノ都度軍司令官ニ

報告スヘシ

第十一條 軍司令官ハ組合ニ對シ監督上必要ナル命令ヲ發シ又

ハ當該官吏ヲシテ組合業務ノ狀況並財產、帳簿等ヲ検査セシ

ムルコトアルヘシ

第十二條 第二條、第七條乃至第十條ニ違反シタル者又ハ第十

一條ノ命令ニ違反シ若ハ検査ヲ拒ミタル者ハ銀百圓以下ノ罰

金ニ處ス

前項ノ所爲ニシテ組合ニ係ルモノナルトキハ組合役員ヲ處罰

ス

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

軍告示第五百十六號

軍軍令第三十七號青島鹽業規則ニ依ル願、届書及標本雛形左ノ

通定ム

大正七年十月七日

青島守備軍司令官 本郷房太郎

鹽田開設許可願

一 開設地ノ位置

一 開設副斗子數

一 出願地ノ種目

一 開設資金

一 開設ニ要スル人員
一 事業經歷ノ概要
右鹽田開設御許可相成度別紙圖面相添ヘ及御願候也

年 月 日

原 籍

現住所

氏 名 印

軍司令官宛

注意

一 添附圖ハ出願地ノ隣地圖又ハ著明ナル目標其ノ他四圍ノ
狀況ヲ描キ其ノ位置ヲ明カナラシメ二通ヲ添附スヘシ

二 願書ハ一鹽田毎ニ一通ヲ提出スヘシ

三 増設ノ場合ハ新規開設ノ手續ヲ爲スヘシ

四 代理人ヲ以テ出願スル場合ハ委任狀ヲ添附スヘシ

五 開設地ノ種目ハ干潟地、荒蕪地、廢鹽田跡、魚池等明記

スヘシ

六 事業經歷ノ概要ニハ鹽業經營ニ關スル經歷ヲ記載スヘシ

七 開設ニ要スル人員ハ延人員ヲ記載スヘシ

鹽田開設工事著手届

一 許可年月日

一 開設地ノ位置

一 開設副斗子數

一 著手年月日

一 竣功豫定年月日

右及御届候也

年 月 日

原籍
現住所

氏名
印

軍司令官宛

鹽田使用願

一 使用鹽田ノ位置

一 使用副斗子數

一 事業資金

一 常備使役人數

右鹽田開設ヲ完了致候ニ付使用致度候間御許可被成下度別紙圖

面相添へ及御願候也

年 月 日

原籍

現住所

氏名
印

軍司令官宛

注意

一 添附圖ハ出願地ノ隣接圖又ハ著明ナル目標其ノ他四圍ノ

形狀ヲ描キ其ノ位置ヲ明確ナラシメ二通ヲ添附スヘシ

二 願書ハ一鹽田毎ニ一通ヲ提出スヘシ

三 増設使用ノ場合ハ本文「右鹽田」ノ下ニ「増設使用致度候

間別紙圖面及鹽田使用許可書相添へ」ト改ムヘシ

四 代理人ヲ以テ出願スル場合ハ委任狀ヲ添附スヘシ

鹽田使用許可證下付願

一 許可證番號

一 許可證下付年月日

前記ノ鹽田使用許可證何ノ事由ニ依リ亡失(流失、燒失)致候ニ付再下付被成下度及御願候也

年 月 日

原籍

現住所

氏名
印

軍司令官宛

鹽田使用許可證書換願

一 許可證番號

一 許可證下付年月日

右鹽田何ノ事由ニ依リ書換致度鹽田使用許可證相添へ及御願候也

也

年 月 日

原籍

現住所

氏名
印

軍司令官宛

鹽田使用名義變更願

一 許可證番號

一 許可證下付年月日

右鹽田何ノ事由ニ依リ讓渡(相續)致度鹽田使用許可證相添へ當事者連署ヲ以テ及御願候也

年 月 日

原籍

現住所

讓渡人氏

名
印

軍司令官宛

原籍
現住所
讓受人氏 名 印

注意

一 遺産相續ノ場合ハ前使用者死亡年月日及前使用者トノ續柄ヲ記載シ責任アル官公吏ノ證明書ヲ添附スヘシ

鹽田開設(使用)廢止届

一 開設(使用)地ノ位置

一 開設(使用)副斗子數

一 許可(許可證下付)年月日

一 右番號

右何ノ事由ニ依リ廢止致度候條開設許可書(鹽田使用許可證)相添ヘ及御届候也

年 月 日

原籍
現住所

氏 名 印

軍司令官宛

苦汁蒐集許可願

一 蒐集區域

一 蒐集ノ目的

一 蒐集ノ方法

一 蒐集ニ要スル資金

一 蒐集ニ從事スル人員

右之通苦汁蒐集致度候間御許可被成下度別紙計畫書並工事設計

書相添ヘ及御願候也

年 月 日

原籍
現住所

氏 名 印

軍司令官宛

產鹽輸(移)出許可願

一 鹽ノ種類

一 輸(移)出豫定總數量

一 輸(移)出先地名

右輸(移)出致度候間御許可被成下度及御願候也

年 月 日

住所

氏 名 印

軍司令官宛

原產地證明願

一 鹽ノ種類

一 積出實數量

一 輸(移)出先地名

一 積載船名

一 輸(移)出年月日

但シ何年何月何日許可ノ分

右輸(移)出致候ニ付御證明被成下度候也

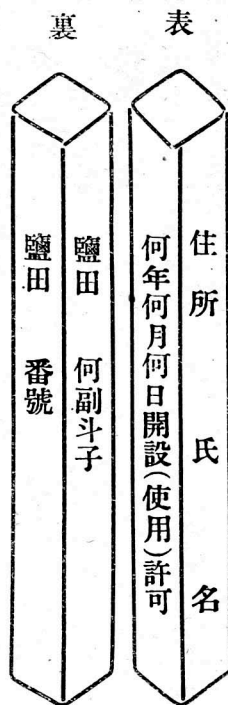
年 月 日

住所

氏 名 印

青島民政署長宛

標木雛形



注意
裏面ハ鹽田使用許可ノ場合ニ適用ス

倫敦銀塊相場

(十月中)

一日	四十九片二分一	十二日	同
二日	同	十三日	日曜
三日	同	十四日	四十九片二分一
四日	同	十五日	同
五日	同	十六日	同
六日	日曜	十七日	同
七日	四十九片二分一	十八日	同
八日	同	十九日	同
九日	同	二十日	日曜
十日	同	廿一日	四十九片二分一
十一日	同	廿二日	同

寄贈書類

(大正七年十月到著ノ分)

〇岐阜商報	五五號、五六號	岐阜商業會議所
〇保險銀行時報	自八九二號至八九六號	保險銀行時報社
〇月報	第二八號	熊本商業會議所
〇綿糸紡績事情報	第三一號	大日本紡績聯合調查部
〇東方時論	十月號	東方時論社

〇年報	大正六年	函館商業會議所
〇月報	一三七號	名古屋商業會議所
〇月報	二六三號	橫濱商業會議所
〇月報	一〇〇號	釧路實業協會
〇月報	六四號	門司商業會議所
〇月報	八九號	福井商業會議所
〇月報	自一〇七號至一〇八號	天津商業會議所
〇週報	支那ニ於ケル地租制度改革問題	南滿洲鐵道株式會社
〇週報	黑龍江航運ニ關スル調査	總務部調查課
〇週報	自三四〇號至三四三號	上海日本人實業協會
〇週報	上海貿易統計月表	上海經濟時報社
〇週報	自四三號至四五號	遠東時報社
〇週報	大正七年自四月同至六月	四日市商業會議所
〇週報	六號	大阪附立商品陳列所
〇週報	第四卷第一〇號	東亞經濟調查局
〇週報	一二六號	岡山商業會議所
〇週報	七五號	下關商業會議所
〇週報	第四卷第一九號	東京鐵工會報社
〇週報	六號	東京商業會議所
〇週報	一五〇號	函館商業會議所
〇週報	一七四號	宇都宮商業會議所
〇週報	第四卷第八號	神戶商業會議所
〇週報	三一號三二號	山東公論社
〇週報	八月、七月分	青島守備軍民政部
〇週報	一〇二號	青島商業會議所
〇週報	三三號	仁川商業會議所
〇週報	一三六號	京城商業會議所
〇週報	第六年度	大阪商業會議所
〇週報	第三三號	下關商業會議所
〇週報	第一三六號	東洋殖民新報社
〇週報	九月、十月分	青島商業會議所
〇週報	大正七年十月發行	大連商業會議所
〇週報	二二號	平壤商業會議所
〇週報	大正七年上半年期	青島商業會議所

統計

青島輸出入貿易 (九月中)

—海關貿易統計—

輸入外國品仕出地別

品 目	單位	日 本	英 國	米 國	香 港	其ノ他	上 海	大 連	其ノ他	合 計
精 製 阿 片 (綿 製 品 類)	担	7.50	—	—	—	—	—	—	—	7.50
生 金 巾	疋	5.400	—	—	—	—	1.360	—	—	6.760
シーチング(米品)	"	—	—	—	—	—	140	—	—	140
同 (英 品)	"	—	—	—	—	—	200	—	—	200
同 (日本品)	"	1.260	—	—	—	—	940	2	—	2.202
晒 金 巾	"	605	—	—	—	—	646	750	—	2.001
綾 金 巾	"	—	—	—	—	—	—	—	—	—
雲 齊 布(米 品)	"	—	—	—	—	—	—	—	—	—
同 (英 品)	"	—	—	—	—	—	110	—	—	110
同 (日本品)	"	—	—	—	—	—	150	—	—	150
シェーン(米 品)	"	—	—	—	—	—	—	—	—	—
同 (和蘭品)	"	—	—	—	—	—	—	—	—	—
同 (英 品)	"	—	—	—	—	—	860	—	—	860
同 (日本品)	"	4.120	—	—	—	—	6.480	—	—	10.600
天竺布三十二吋	"	—	—	—	—	—	3.954	—	—	3.654
同 (日本品)	"	2.647	—	—	—	—	2.340	—	—	4.987
寒 冷 紗 及 綿 紗	"	—	—	—	—	—	—	—	—	—
平織捺線染色各種	"	4.714	—	—	—	—	2.580	20	—	7.314
チンズ及平織更紗	"	—	—	—	—	—	360	—	—	360
フリンテッド フローネチュワー	"	—	—	—	—	—	540	28	—	568
捺 線 綿 襦 子	"	—	—	—	—	—	—	—	—	—
捺 線 天 竺 布	"	30	—	—	—	—	2.300	—	—	2.330
コットンイタリア ン及ラッスイング	"	—	—	—	—	—	4.531	—	—	4.531
イーフトブラック	"	—	—	—	—	—	1.950	—	—	1.950
同 平 織 染 色	"	—	—	—	—	—	318	—	—	318
同 綾	"	270	—	—	—	—	2.777	—	—	3.067
緋金巾及綿天竺布	"	2.351	—	—	—	—	958	—	240	3.549
綿スパニシストラ イブ 六十四吋	担	—	—	—	—	—	68	—	—	68
綿 フ ラ ン ネ ル	"	2.971	—	—	—	—	930	20	—	3.921
同 フ ラ ン ケ ッ ト	"	5.200	—	—	—	—	—	10	—	5.210

品 目	單位	日 本	英 國	米 國	香 港	其ノ他	上 海	大 連	其ノ他	合 計
手 巾	打	200	—	—	—	—	702	—	—	902
タ オ ル	"	—	—	—	—	—	—	—	—	—
同 (日本産)	"	1,813	—	—	—	—	—	—	—	1,813
綿織絲 (印 度)	担	—	—	—	—	—	390	—	—	390
同 (日 本)	"	3,062	—	—	—	—	—	—	—	3,062
綿 縫 絲(絲卷)	哥	1,050	—	—	—	—	255	—	—	1,305
(毛綿交織類)										
ユニオン及ボンチ	碼	—	—	—	—	—	1,391	—	—	1,391
ヨークローズ										
(毛製 品 類)										
綾 吳 呂	疋	—	—	—	—	—	—	—	—	—
羅 世 伊 多	"	—	—	—	—	—	—	—	—	—
伯林ウール及毛絲	担	7	—	—	—	—	8	—	—	15
(雜質織物類)										
絹製 品 交 織	斤	2,520	—	—	—	—	139	266	—	2,925
(金 屬 品)										
片	担	—	—	—	—	—	—	—	—	—
線	"	3	—	—	—	—	7	—	—	10
銅 板	"	10	—	—	—	—	—	—	—	10
(鐵 及 軟 鐵 新)										
條	担	87	—	—	—	—	199	—	—	286
屑鐵 及 屑鐵線	"	—	—	—	—	—	—	—	—	—
筵	"	—	—	—	—	—	60	—	—	60
橡	"	—	—	—	—	—	—	—	—	—
釘 用 竿 鐵	"	—	—	—	—	—	—	—	—	—
ネール(ロイヤル)	"	—	—	—	—	—	267	—	—	267
片 及 板	"	67	—	—	—	—	96	—	—	163
線	"	2	—	—	—	—	32	—	—	34
鐵 及 軟 鐵(古)	"	880	—	—	—	—	141	—	893	1,914
鍍 金 鐵 片	"	79	—	—	—	—	4	14	—	97
鉛 塊	"	2	—	—	—	—	—	—	—	2
鋼 鐵	"	—	—	—	—	—	—	—	—	—
葉 鐵	"	9	—	—	—	—	4,070	—	—	4,079
白 銅 片 及 線	"	1	—	—	—	—	3	—	—	4
(雜 貨)										
麻 袋	"	75,200	—	—	—	—	—	82,200	—	157,400
麥 酒	"	4	—	—	—	—	—	—	—	4
綿 帶	"	1,685	—	—	—	—	750	—	—	2,435
バ タ 一	"	7	—	—	—	—	13	—	—	20

品 目	單位	日 本	英 國	米 國	香 港	其ノ他	上 海	大 連	其ノ他	合 計
銅鈕釦花鈕釦	哥	145	—	—	—	—	—	—	—	145
蠟 燭	担	7	—	—	—	—	105	4	—	116
セ メ ソ ト	//	—	—	—	—	—	—	—	—	—
同 (日本品)	//	—	—	—	—	—	—	3,036	—	3,066
磁 石 瓦 器	海關兩	1,501	—	—	—	—	44	—	—	1,545
紙 卷 煙 草	千 本	—	—	11,250	—	—	4,555	—	—	15,805
同 (日本品)	//	1,500	—	—	—	—	—	2	—	1,502
掛 置 時 計	個	198	—	—	—	—	—	84	—	282
石 炭	噸	413	—	—	—	—	—	—	—	413
染料顏料塗料										
ア ニ リ ソ	海關兩	—	—	—	—	—	925	—	—	925
人 造 藍	担	—	—	—	—	—	49	—	—	49
天 然 藍 液 狀	//	—	—	—	—	—	—	—	—	—
白 鉛 粉	//	—	—	—	15	—	97	—	—	112
ソングワー	//	—	—	—	—	—	31	—	—	31
越 幾 斯	海關兩	2,117	—	—	—	—	400	654	—	3,171
電 氣 材 料										
珞 瑯 洗 面 器	打	140	—	—	—	—	—	—	—	140
麥 粉	担	16	—	—	—	—	2	—	—	18
窓 硝 子	箱	831	—	—	—	—	20	15	—	866
洋 燈 及 洋 燈 器	海關兩	1,424	—	—	—	—	390	—	—	1,814
燐 寸 (黃 燐)	哥	72,017	—	—	—	—	—	—	—	72,017
同 (安 全)	//	3,566	—	—	—	—	—	—	—	3,566
疊 及 莫 座	枚	18,641	—	—	—	—	—	—	—	18,641
コンデンスミルク	打	60	—	—	—	—	80	56	—	196
針	千 本	21,000	—	—	—	—	—	—	—	21,000
石 油 (米品箱入)	ガロン	—	—	—	—	—	20	—	—	20
同 (裸)	//	—	—	—	—	—	—	—	—	—
同 (露國箱入)	//	—	—	—	—	—	—	—	—	—
同 (裸)	//	—	—	—	—	—	—	—	—	—
ス マ ト ラ (裸)	//	—	—	—	—	723,641	—	—	—	723,641
同 (箱入)	//	—	—	—	—	—	—	—	—	—
同 (日本箱入)	//	67,900	—	—	—	—	—	—	—	67,900
同 (裸)	//	—	—	—	—	—	—	—	—	—
紙	担	496	—	—	—	—	556	63	—	1,115
胡 椒	//	—	—	—	27	—	241	—	—	268
米	//	1,113	—	—	—	—	—	—	—	1,113
昆 布	//	344	—	—	—	—	—	—	—	344
日 本 酒	//	545	—	—	—	—	—	26	—	571

品目	單位	日本	英國	米國	香港	其ノ他	上海	大連	其ノ他	合計
石鹼條	〃	17	—	—	—	—	9	—	—	26
同化粧用	海關兩	1,786	—	—	—	—	—	162	—	1,948
曹達	担	2	—	—	—	—	130	3	—	135
醬油	〃	221	—	—	—	—	—	57	—	278
砂糖(赤)	〃	—	—	—	—	—	—	—	—	—
同(白)	〃	815	—	—	—	—	—	168	—	983
同精製	〃	3,915	—	—	—	—	3	27	—	3,945
同冰	〃	639	—	—	—	—	—	689	—	1,328
木材(堅)	立方尺	—	—	—	—	—	172	655	—	827
同(軟)	〃	2,200	—	—	—	—	—	—	—	2,200

輸出支那品仕向地別 (同上)

品目	單位	日本	英國	米國	香港	其ノ他	大連	上海	其ノ他	合計
生豆	牛頭	—	—	—	—	—	95	—	—	65
黃柏	担	—	—	—	—	—	—	—	—	—
牛肉	〃	—	—	—	—	—	—	—	—	—
牛獸	クオタ	37	—	—	—	6,236	—	22	—	6,295
銅豚	担	127	—	—	—	—	—	—	—	127
氈塊	〃	17	—	—	—	—	782	—	—	799
氈毛	〃	—	—	—	—	—	—	471	—	471
氈帽	個	—	—	—	—	—	—	—	—	—
氈炭	噸	8,957	—	—	—	—	49	7,820	—	16,826
山花	担	881	—	—	—	—	580	—	655	2,116
錫	〃	—	—	—	—	—	—	76	—	76
黑蛋	〃	—	—	—	—	—	—	—	—	—
蛋乾	〃	—	—	—	—	—	—	120	—	120
白黃蛋	〃	76	—	—	—	—	—	637	—	713
雞卵	〃	—	—	—	—	—	—	—	—	—
麻	個	515,700	—	—	—	—	—	—	—	515,700
鹽	担	—	—	—	—	—	22	—	8	30
鹽果	〃	—	—	—	—	—	—	—	—	—
硝物子	〃	—	—	—	—	—	1	2,781	—	2,782
落花	〃	—	—	—	—	—	—	72	144	216
生仁	〃	—	—	—	—	—	—	—	—	—
髮子	〃	15	—	—	—	—	—	3,231	—	3,246
麥	〃	2	—	—	—	—	—	—	—	2
藥	個	—	—	—	—	—	—	—	—	—
藥	担	—	—	—	—	—	98	51	323	472

品目	單位	日本	英國	米國	香港	其ノ他	大連	上海	其ノ他	合計
豆落梨鹽	油	2	—	—	—	—	3.929	—	—	3.931
花生油	油	—	—	—	—	—	2.240	—	133	2.373
鹽豚	個担	—	—	—	—	—	—	755	—	755
鹽	担	115.718	—	—	—	—	—	319	—	319
杏生同同同	仁座操担	—	—	—	—	—	—	86	—	86
絲白再操	担	—	—	—	—	—	—	41	—	41
同白機	担	—	—	—	—	—	—	—	—	—
同白機	担	—	—	—	—	—	—	8	—	8
同黃座操	担	—	—	—	—	—	—	239	—	239
同黃再操	担	—	—	—	—	—	—	—	—	—
同黃機	担	—	—	—	—	—	—	122	—	122
同層絲	担	—	—	—	—	—	—	3.378	2	3.380
層繭品	担	—	—	—	—	—	—	—	—	—
生絲製	担	2	—	—	—	—	—	9	—	11
山東絹	紬	24	—	—	—	—	—	172	—	196
犬牛皮	枚担	—	—	—	—	—	—	—	—	—
生牛皮	担	1.459	—	—	—	—	4	—	27	1.490
生羊皮	枚担	83	—	—	—	—	—	—	—	83
麥稈真田色染モノ	担	—	—	—	—	—	—	—	—	—
同班色モノ	担	—	—	—	—	—	—	—	—	—
同白色モノ	担	760	—	—	—	—	—	241	—	1.001
同牛油	担	15	—	—	—	—	109	—	—	124
蔬菜麵	担	—	—	—	—	—	—	—	—	—
豆素麵	担	—	—	—	—	—	—	—	—	—
胡桃	担	—	—	—	—	—	—	21	—	21
羊毛	担	193	—	—	—	—	—	—	—	193

輸入支那品仕出地別 (同上)

品目	單位	上海	芝罘	大連	其ノ他	合計
(綿製品類)						
シーチング(上海)	疋	3.440	—	—	—	3.440
雲齋(同)	担	1.100	—	—	—	1.100
土布	擔	55	—	—	—	55
綿織絲	擔	9.220	—	—	—	—
花色土布	担	—	—	—	—	9.220
(雜貨)	疋					
石砧	擔	300	—	—	—	300

品	目	單位	上	海	芝	罌	大	連	其	ノ	他	合	計
竹	等	個	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
竹	炭	担	—	4	—	—	—	—	—	—	—	—	4
筍		"	—	67	—	—	—	—	—	—	—	—	67
書	籍	"	—	35	—	—	—	3	—	—	—	—	38
蠟	燭	"	—	191	—	—	—	—	—	—	—	—	191
米		"	—	1,563	—	—	—	—	—	—	—	—	1,563
磁	器	"	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	1
紙	卷煙草	"	—	1518	—	—	—	83	—	—	—	—	1,601
石	炭(撫順開平)	噸	—	—	—	—	—	3,300	—	—	—	—	3,300
紙	扇	個	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
小麥	機械製	担	—	1,501	—	—	—	—	—	—	—	—	1,501
夏布	粗製	"	—	6	—	—	—	—	—	—	—	—	6
同精	製	"	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
藥		"	—	113	—	—	—	—	—	—	—	—	113
桐	油	"	—	161	—	—	—	—	—	—	—	—	161
紙	一 等 品	"	—	188	—	—	—	—	—	—	—	—	188
同	二 等 品	"	—	2,556	—	—	—	—	—	—	—	—	2,556
同	錫 箔	"	—	472	—	—	—	—	—	—	—	—	472
同	其ノ他	"	—	100	—	119	—	—	—	—	—	—	219
糖	菓	"	—	91	—	—	—	—	—	—	—	—	91
三	蒸 酒	"	—	24	—	—	—	—	—	—	—	—	24
靴	綿 及 絹	雙	—	1,205	—	—	—	—	—	—	—	—	1,205
生	絲	担	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
同	製 白 黃 品	"	—	4	—	—	—	—	—	—	—	—	4
同	製	斤	—	510	—	—	—	—	—	—	—	—	510
石	鹼 條 形	担	—	44	—	—	—	67	—	—	—	—	111
麥	稈 真 田	"	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
砂	糖 (赤)	"	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
同	(白)	"	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
茶		"	—	1,706	—	—	—	—	—	—	—	—	1,706
煙	草 刻	"	—	7	—	—	—	—	—	—	—	—	7
木	製 品	"	—	87	—	2	—	—	—	—	—	—	89

青島三驛發著貨物主要品 (九月中)

(單位噸以下一位獸類頭數)

品目	發著	青島驛		大港驛		埠頭荷扱所		計
		一車扱	小口扱	一車扱	小口扱	一車扱	小口扱	
石炭	發著	210.0	—	—	—	45.0	—	255.0
	"	249.5	0.3	30.0	0.2	4,205.0	—	4,435.0
コークス	"	105.0	—	—	—	—	—	105.0
	"	260.7	—	—	—	3,690.0	—	3,950.7
石灰	"	—	—	—	—	—	—	—
	"	890.0	—	10.0	—	180.0	—	1,080.0
煉瓦(瓦ヲ含ム)	"	6.0	0.1	—	—	—	—	6.1
	"	—	—	70.0	—	—	—	70.0
セメント	"	8.6	—	—	—	—	—	8.6
	"	—	—	131.8	—	—	—	131.8
硝子板	"	19.7	0.2	—	—	—	—	19.9
	"	—	—	—	—	—	—	—
硝子製品	"	—	1.9	—	—	—	—	1.9
	"	14.9	0.9	—	—	—	—	15.8
桐	"	—	3.3	—	—	—	—	3.3
	"	59.5	0.4	408.2	—	—	—	468.1
木材(板ヲ含ム)	"	72.4	4.7	—	—	650.2	—	727.3
	"	1.8	0.8	170.6	—	—	—	173.2
竹及割竹	"	—	—	—	—	—	—	—
	"	—	0.2	—	—	—	—	0.2
石材及同製品	"	—	—	—	—	—	—	—
	"	—	—	—	—	—	—	—
鐵板及鐵製品	"	24.5	9.9	—	—	38.0	—	72.4
	"	2.9	3.8	—	0.2	268.1	—	275.0
鐵鍋	"	—	—	—	—	—	—	—
	"	49.3	—	—	—	—	—	49.3
古鐵	"	167.4	—	—	—	—	—	167.4
	"	340.8	0.7	161.1	0.4	56.1	—	559.1
大豆	"	303.9	—	52.5	—	—	—	356.4
	"	—	—	—	—	—	—	—
豆類(大豆ヲ除ク)	"	30.3	0.4	—	—	—	—	30.7
	"	40.0	0.1	—	—	—	—	40.1
高粱	"	50.7	—	14.3	—	90.0	—	155.0
	"	—	—	—	—	—	—	—
小麥	"	89.8	0.1	—	—	15.0	—	104.9
	"	1,264.1	—	3,921.5	—	2,314.5	—	7,500.1
米	"	5.1	9.6	—	—	—	—	14.7
	"	111.5	0.1	135.3	—	373.8	—	620.7
穀類(表中記載ノモノヲ除ク)	"	—	—	—	—	—	—	—
	"	3.5	1.7	—	—	—	—	5.2
落花生	"	—	—	—	—	—	—	—
	"	—	—	—	—	—	—	—

品 目	單 位	青 島 驛		大 港 驛		埠 頭 荷 扱 所		計
		一車扱	小口扱	一車扱	小口扱	一車扱	小口扱	
麥 粉	發 著	—	0.7	0.4	—	—	—	1.1
		130.7	0.1	—	—	—	—	130.8
陶 磁 器 及 土 器	"	—	0.6	—	—	—	—	0.6
	"	74.3	—	—	0.1	—	—	74.4
支 那 紙	"	113.3	1.2	5.0	—	—	—	119.5
	"	1.6	0.2	—	—	—	—	1.8
紙 (支那紙ヲ除ク)	"	—	—	—	—	—	—	—
	"	—	—	—	—	—	—	—
麻	"	—	—	—	—	—	—	—
	"	20.0	1.6	78.3	—	—	—	99.9
綿	"	4.7	2.7	7.5	—	—	—	14.9
	"	135.7	0.8	263.1	—	12.7	—	412.3
綿 布	"	337.9	10.4	—	—	60.0	—	408.3
	"	—	3.2	—	—	—	—	3.2
綿 絲	"	1.169.1	9.6	58.4	—	—	—	1,237.1
	"	—	0.4	100.8	0.1	—	—	101.3
綿 製 品	"	3.0	2.9	—	—	—	—	5.9
	"	2.7	3.0	—	—	—	—	5.7
絹 絲 (屑ヲ含ム)	"	—	0.1	—	—	—	—	0.1
	"	23.3	1.9	—	—	4.4	—	29.6
絹 布 類	"	—	—	—	—	—	—	—
	"	12.4	3.0	—	—	—	—	15.4
繭 (屑繭ヲ含ム)	"	—	—	—	—	—	—	—
	"	77.5	—	—	—	151.8	—	229.3
棗	"	—	—	—	—	—	—	—
	"	7.9	0.2	—	—	—	—	8.1
胡 桃	"	—	—	—	—	—	—	—
	"	—	0.3	—	—	—	—	0.3
及 西 瓜	"	—	—	—	—	—	—	—
	"	9.1	0.5	0.3	—	—	—	9.9
瓜 子	"	—	—	—	—	—	—	—
	"	7.4	—	57.5	—	—	—	64.9
果 實 (表中記載ノモノヲ除ク)	"	—	0.1	—	—	—	—	0.1
	"	—	0.1	—	—	—	—	0.1
石 油	"	34.4	—	660.3	—	661.3	—	1,356.0
	"	120.0	—	—	—	—	—	120.0
落 花 生 油	"	—	—	—	—	—	—	—
	"	29.3	—	83.0	—	—	—	112.3
豆 油	"	—	—	—	—	—	—	—
	"	151.2	1.5	505.3	—	—	—	658.0
牛 油	"	—	—	—	—	—	—	—
	"	2.0	1.0	—	—	—	—	3.0
油 類 (表中記載ノモノヲ除ク)	"	19.0	2.8	—	—	—	—	21.8
	"	9.3	0.8	205.2	—	—	—	215.3
油 粕	"	600.9	—	235.0	—	165.0	—	1,000.9
	"	—	0.2	—	—	—	—	0.2

品目	單位	青島驛		大港驛		埠頭荷扱所		計
		一車扱	小口扱	一車扱	小口扱	一車扱	小口扱	
肥料各種	發著	14.9	—	—	—	—	—	14.9
麥稈眞田	"	—	0.8	—	—	—	—	0.8
	"	9.2	—	—	—	—	—	9.2
	"	36.1	4.7	—	—	—	—	40.8
安	"	—	—	—	—	—	—	—
菓及栗	"	19.2	—	—	—	—	—	19.2
鹽	"	—	—	—	—	—	—	—
	"	—	—	—	—	—	—	—
	"	—	—	—	—	—	—	—
砂	"	1.042.2	4.7	78.5	—	554.6	—	1.680.0
	"	—	—	—	—	—	—	—
日本酒	"	2.4	15.6	—	—	—	—	18.0
	"	—	0.1	—	—	—	—	0.1
ビール	"	2.5	3.1	—	—	—	—	5.6
	"	—	0.1	—	—	—	—	0.1
支那酒	"	—	—	—	—	—	—	—
	"	2.7	2.3	—	—	—	—	5.0
食料品(表中記載ノモノヲ除ク)	"	4.8	24.9	—	—	—	—	29.7
	"	24.0	3.6	—	—	15.0	—	42.6
乾物	"	—	1.4	—	—	—	—	1.4
	"	—	—	—	—	—	—	—
野菜	"	1.0	0.4	5.4	—	—	—	6.8
	"	—	0.4	—	—	—	—	0.4
鷄卵	"	—	—	—	—	—	—	—
	"	—	4.1	25.5	—	—	—	29.6
藍	"	—	—	—	—	—	—	—
	"	—	—	—	—	—	—	—
染塗料	"	0.1	—	—	—	—	—	0.1
	"	40.1	1.0	—	—	—	—	41.1
藥品及藥材	"	2.3	14.6	1.7	—	—	—	18.6
	"	23.8	3.1	5.1	—	—	—	32.0
曹達	"	1.4	—	0.2	—	—	—	1.6
	"	0.2	0.2	20.2	—	—	—	20.6
石鹼	"	14.1	1.1	5.2	—	—	—	20.4
	"	—	0.3	—	—	—	—	0.3
煙草	"	74.5	22.5	49.1	—	72.4	—	218.5
	"	16.3	1.3	—	—	—	—	17.6
葉煙草	"	—	—	—	—	—	—	—
	"	—	—	—	—	—	—	—
茶	"	50.1	0.4	—	—	12.2	—	62.7
	"	—	—	—	—	—	—	—
豚毛	"	—	—	13.0	—	—	—	13.0
	"	39.1	1.5	—	—	—	—	39.6

品目	單位	青島驛		大港驛		埠頭荷扱所		計
		一車扱	小口扱	一車扱	小口扱	一車扱	小口扱	
羊	毛	發著	—	—	—	—	—	—
		6.3	0.1	—	—	4.5	—	10.9
獸	骨	—	—	—	—	—	—	—
		38.9	—	14.8	—	1.0	—	54.7
牛	皮	—	1.1	—	—	—	—	1.1
		11.2	4.5	1.3	—	17.0	—	34.0
豚	皮	—	0.1	—	—	—	—	0.1
		12.7	1.8	—	—	—	—	14.5
魚	類	—	—	—	—	—	—	—
		204.6	3.7	0.6	—	—	—	208.9
昆布其ノ他海草		—	—	—	—	—	—	—
		1.6	0.1	—	—	—	—	1.7
礬		—	—	—	—	—	—	—
		—	—	—	—	—	—	—
雜貨	(表中記載ノモノヲ除ク)	—	—	—	—	—	—	—
		853.1	7.5	3.5	—	5.4	0.1	869.6
		69.2	0.8	3.4	—	—	—	73.4
礬	寸	—	—	—	—	—	—	—
		178.9	0.3	98.6	—	—	—	277.8
		—	0.1	—	—	—	—	0.1
礬	寸	—	—	—	—	—	—	—
		—	—	9.0	—	228.9	—	237.9
火	藥	—	—	—	—	—	—	—
		1.8	—	—	—	—	—	1.8
銅	貨	—	—	—	—	—	—	—
		—	2.9	—	—	—	—	2.9
青銅	錢	—	—	—	—	—	—	—
		10.5	0.9	76.2	8.5	—	—	96.1
銅		—	—	—	—	—	—	—
		3.2	0.3	2.7	—	—	—	6.2
家	具	—	—	—	—	—	—	—
		4.7	6.3	—	—	—	—	11.0
		7.5	1.0	—	—	3.2	—	11.7
麻袋及布袋		—	—	—	—	—	—	—
		50.4	18.5	39.6	—	3.0	—	111.5
		0.8	8.9	—	—	—	—	9.7
容器	類	—	—	—	—	—	—	—
		2.5	0.3	—	—	—	—	2.8
		107.1	3.2	—	—	5.4	—	115.7
蠟	燭	—	—	—	—	—	—	—
		6.0	1.3	—	—	—	—	7.3
其ノ他		—	—	—	—	—	—	—
		36.3	19.9	54.2	—	1.7	3.6	115.7
		32.4	3.2	177.6	5.5	—	—	218.7
牛		—	—	—	—	—	—	—
		482.	—	—	—	—	—	482.
合	計	—	—	—	—	—	—	—
		5,929.1	207.8	1,392.0	—	2,602.7	3.7	10,135.3
		4,609.2	80.3	6,658.8	15.0	11,302.5	—	22,665.8

埠頭陸揚貨物噸數仕出地別 (九月中)

品 目	單位	日本內地	朝 鮮	臺 灣	支 那	其ノ他外國	計
白 米	噸	3.0	—	—	198.8	—	201.8
豆 類	"	7.7	0.3	—	2.5	—	10.5
高 粱	"	—	—	—	—	—	—
玉 蜀黍	"	—	—	—	—	—	—
小 麥	"	—	—	—	—	—	—
其ノ他穀類及種子	"	12.5	—	—	—	—	12.5
麥 粉	"	—	—	—	101.8	—	101.8
蔬 菜	"	18.3	—	—	8.5	—	26.8
果 實	"	4.4	—	—	17.4	—	21.8
茶	"	6.2	—	—	601.4	—	607.6
白 砂 糖	"	283.5	—	—	15.1	—	298.6
赤 砂 糖	"	—	—	—	—	—	—
冰 砂 糖	"	43.6	—	—	57.4	—	103.0
鮮 魚 介	"	1.0	—	—	0.3	—	1.3
昆 布 及 海 草	"	19.5	—	—	—	—	19.5
其ノ他海產物	"	15.2	0.8	—	17.3	—	33.3
日 本 酒	"	167.1	0.2	—	3.2	—	170.5
洋 酒	"	3.2	—	—	13.1	—	16.3
支 那 酒	"	—	—	—	4.3	—	4.3
麥 酒	"	0.1	—	—	—	—	0.1
清 涼 飲 料	"	14.2	—	—	59.4	—	73.6
醬 油	"	27.5	7.1	—	13.7	—	48.3
味 噌	"	4.9	12.0	—	4.6	—	21.5
其ノ他食料品	"	142.5	9.7	0.1	100.5	—	252.8
煙 章	"	59.4	8.8	—	632.1	—	700.3
皮 革 類	"	2.6	—	—	1.6	—	4.2
石 桐 油	"	100.2	—	—	—	2,418.9	2,519.1
其ノ他油類	"	—	—	—	27.5	—	27.5
蠟 燭	"	21.2	—	—	29.6	0.1	50.9
	"	0.9	—	—	76.5	—	77.4
石 鹼	"	21.4	—	—	12.7	0.1	34.2
藥 品	"	52.1	—	—	140.8	0.4	193.3
磷 寸	"	530.4	15.1	—	—	—	545.5
染 料 及 塗 料	"	48.9	—	—	58.0	—	106.9

品目	單位	日本內地	朝鮮	臺灣	支那	其ノ他外國	計
綿	絲	噸	603.2	—	—	1,499.2	2,102.4
絹	絲	"	—	—	—	—	—
麻		"	0.4	—	15.7	—	16.1
棉	花	"	1.3	—	8.0	—	9.3
棉	布	"	353.9	—	535.3	—	889.2
絹	布	"	107.1	—	2.5	—	7.9
麻	袋	"	5.4	—	143.9	—	251.0
洋物雜貨		"	292.0	—	46.2	0.6	338.8
日本紙		"	63.5	—	14.1	—	77.6
洋紙		"	58.0	—	—	—	58.0
支那紙		"	—	—	716.1	—	716.1
石炭		"	—	—	1,414.0	—	1,414.0
セメント		"	0.1	—	282.4	—	282.5
煉瓦及瓦器		"	—	—	—	—	—
陶磁器		"	66.9	45.6	33.7	11.5	157.7
硝子及同製品		"	128.0	—	147.3	—	275.3
鐵(古鐵ヲ含ム)		"	126.9	—	83.7	—	210.6
其ノ他金屬		"	3.3	—	5.9	—	9.2
金屬製品		"	322.1	50.0	135.6	—	508.7
機械		"	94.2	—	36.2	—	130.4
電氣用品		"	29.2	—	5.5	—	34.7
車輛		"	274.0	—	13.8	—	287.8
竹材		"	0.5	—	18.3	—	18.8
木材		"	1,407.3	—	1,046.3	—	2,453.6
燐寸材料		"	646.5	—	43.7	—	690.2
木炭		"	32.4	—	3.0	—	35.4
庭類		"	95.8	51.6	1.9	—	149.3
家具		"	26.7	1.3	65.8	—	93.8
豆粕片		"	—	—	444.4	—	444.4
阿片		"	0.9	—	—	—	0.9
貴重品		"	0.4	—	—	—	0.4
其ノ他		"	327.9	14.9	543.5	0.1	886.4
合計		"	6,684.4	217.4	36.8	9,478.9	2,420.2
							18,837.7

埠頭船積貨物噸數仕向地別 (九月中)

品目	單位	日本內地	朝鮮	臺灣	支那	其ノ他外國	計
生牛	噸	—	—	—	55.0	—	55.0
其ノ他動物	"	—	—	—	1.8	—	1.8
落花生	"	—	0.9	—	201.1	—	202.0
豆類	"	—	—	—	—	—	—
其ノ他穀類及種子	"	1.324.9	—	—	366.6	—	1,691.5
麥	粉	—	—	—	234.3	—	234.3
蔬菜	菜	—	—	—	95.4	—	95.4
果實	"	—	0.1	—	596.6	—	596.7
核子	"	—	—	—	5.8	—	5.8
白砂	糖	—	—	—	3.8	—	3.8
赤砂	糖	—	—	—	1.8	—	1.8
冰砂	糖	—	—	—	—	—	—
鮮魚	介	0.5	—	—	0.2	—	0.7
其ノ他海產物	"	2.3	—	—	24.8	—	27.1
牛	肉	13.7	—	—	1.6	315.5	330.8
鹽	豚	—	—	—	17.3	—	17.3
其ノ他獸肉	"	—	—	—	—	—	—
豆素	麵	—	—	—	—	—	—
鷄卵	製	86.1	—	—	—	—	86.1
卵製	品	8.4	—	—	83.0	—	91.4
麥	酒	0.2	—	—	489.0	—	489.2
其ノ他酒類	"	—	—	—	—	—	—
鹽	"	5,100.0	1,350.0	—	—	—	6,450.0
其ノ他食料品	"	—	—	—	1.8	—	1.8
煙草	"	—	—	—	15.2	—	15.2
葉煙	草	—	—	—	—	—	—
獸骨	骨	1.8	—	—	—	—	1.8
牛	粉	0.2	—	—	—	—	0.2
其ノ他獸皮	"	39.1	—	0.6	1.8	—	41.5
羊	毛	46.8	—	—	—	—	46.8
豚	毛	—	—	—	46.6	—	46.6
落花生	油	—	—	—	185.6	—	185.6
豆	油	0.2	—	—	309.4	—	309.6
牛	油	2.1	—	—	25.5	—	27.6

品目	單位	日本內地	朝鮮	臺灣	支那	其ノ他外國	計
豚油	噸	—	—	—	—	—	—
蓖麻子油	"	81.5	—	—	12.6	—	94.1
其ノ他油類	"	—	—	—	—	—	—
藥料及塗料	"	2.0	—	—	91.3	—	93.3
染料及塗料	"	—	—	—	0.3	—	0.3
綿絲	"	—	—	—	167.8	—	167.8
絹絲	"	—	—	—	89.4	—	89.4
絹屑	"	—	—	—	903.5	—	903.5
麻	"	236.6	—	—	9.7	—	246.3
棉花	"	341.0	60.0	—	548.1	—	949.1
繭(屑ヲ含ム)	"	65.1	—	—	155.2	—	220.3
綿布	"	—	—	—	84.7	—	84.7
絹布	"	—	4.0	—	31.2	—	35.2
麻紙	"	—	—	—	1.6	—	1.6
紙類	"	—	—	—	7.1	—	7.1
淄川炭	"	4,922.0	—	—	3,175.0	—	8,097.0
博山炭	"	8.3	—	—	5,925.0	—	5,933.3
撫順炭	"	—	—	—	—	—	—
日本炭	"	—	—	—	—	—	—
コークス	"	970.2	—	—	213.4	—	1,183.6
陶磁器	"	—	—	—	0.3	—	0.3
硝子及同製品	"	20.0	—	—	25.1	—	45.1
鐵古鐵(含ム)	"	507.4	—	—	6.1	—	513.5
眞鍮塊	"	14.3	—	—	148.1	—	162.4
其ノ他金屬	"	0.1	—	—	18.3	—	18.4
金屬製品	"	0.1	0.7	—	8.1	—	8.9
機械	"	0.1	—	—	19.4	—	19.5
車輛	"	—	—	—	62.5	—	62.5
桐材	"	568.7	—	—	—	—	568.7
其ノ他木材	"	—	—	—	—	—	—
麥稈	"	261.1	—	—	69.5	—	330.6
家豆	"	10.1	0.6	—	64.8	—	75.5
燐	"	0.1	—	—	—	—	0.1
燐	"	—	—	—	0.9	—	0.9
石	"	—	—	—	0.5	—	0.5
貴重油	"	—	—	—	0.5	—	0.5
其ノ他	"	0.1	—	—	8.4	—	8.5
合計	"	367.4	19.3	51.5	356.9	—	795.1
合計	"	15,002.6	1,435.6	52.1	14,969.3	315.5	31,775.1

出入汽船及積卸貨物數量 (九月中)

區 別	汽 船 數				積 物 卸 噸 貨 數	一 月 以 降 累 計				積 物 卸 噸 貨 數
	隻 數			登 噸		隻 數			登 噸	
	載貨船	空 船	計	簿 數		載貨船	空 船	計	簿 數	
入 港	56	9	65	45,173	18,937.7	544	135	679	568,636	267,286.2
出 港	67	2	69	47,682	32,372.7	624	58	682	573,357	386,571.3
計	123	11	134	92,855	51,210.4	1,168	193	1,361	1,141,993	653,857.5

備考 本表船積貨物ハ船用品ヲ含ム

出入汽船仕出仕向地別 (九月中)

入 港 ノ 部

仕 出 地	日 本 船			英 國 船			米 國 船			支 那 船			計		
	隻數	登簿	噸數	隻數	登簿	噸數	隻數	登簿	噸數	隻數	登簿	噸數	隻數	登簿	噸數
日 本 內 地	11		7,763	—		—	—		—	—		—	11		7,763
大 連	14		11,613	—		—	—		—	—		—	14		11,613
上 海	14		12,854	—		—	—		—	—		—	14		12,854
芝 罘	3		2,751	2		2,446	—		—	—		—	5		5,197
天 津	—		—	—		—	—		—	—		—	—		—
其ノ他支那港	15		527	1		1,333	—		—	—		—	16		1,860
臺 灣	—		—	—		—	—		—	—		—	—		—
釜 山	—		—	—		—	—		—	—		—	—		—
仁 川	2		851	—		—	—		—	—		—	2		851
香 港	—		—	—		—	—		—	—		—	—		—
マニラ	—		—	—		—	2		3,921	—		—	2		3,921
浦 鹽	—		—	—		—	—		—	—		—	—		—
其ノ他外國	—		—	1		1,114	—		—	—		—	1		1,114
合 計	59		36,359	4		4,893	2		3,921	—		—	65		45,173

出 港 ノ 部

仕 向 地	日 本 船			英 國 船			米 國 船			支 那 船			計		
	隻數	登簿	噸數	隻數	登簿	噸數	隻數	登簿	噸數	隻數	登簿	噸數	隻數	登簿	噸數
日 本 內 地	15		10,227	—		—	—		—	—		—	15		10,227
大 連	18		14,912	—		—	—		—	—		—	18		14,912

仕 向 地	日 本 船			英 國 船			米 國 船			支 那 船			計		
	隻數	登簿	噸數	隻數	登簿	噸數	隻數	登簿	噸數	隻數	登簿	噸數	隻數	登簿	噸數
上 芝 天	12		11.063	3		3.779	—		—	—		—	15		14.842
海 采 津	—		—	—		—	—		—	—		—	—		—
其 他 支 那 港	1		962	—		—	—		—	—		—	1		962
臺 釜 灣 山	14		427	—		—	—		—	—		—	14		427
仁 香 マ	3		1.277	—		—	—		—	—		—	3		1.277
川 港 ラ	—		—	—		—	—		—	—		—	—		—
浦 其 合	—		—	—		—	2		3.921	—		—	2		3.921
鹽 外 國 計	—		—	—		—	—		—	—		—	—		—
浦 其 合	—		—	1		1.114	—		—	—		—	1		1.114
鹽 外 國 計	63		38.868	4		4.893	2		3.921	—		—	69		47.682

入港汽船揚荷噸數國籍別 (九月中)

汽 船 國 籍 別	日 本 內 地			臺 灣	朝 鮮	大 連	上 海	芝 罘	天 津	其 支 那 他 港	香 港	其 外 他 國	計
	大 神	阪 戶	門 司 其 他										
日 本 國 籍	4.558.0	2.126.4	36.8	217.4	2.849.3	5.402.2	219.0	3.0	951.9	—	—	—	16.364.0
英 米 支 那	—	—	—	—	—	—	5.6	—	47.9	—	—	2.418.9	2.472.4
合 計	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1.3	1.3
合 計	4.558.0	2.126.4	36.8	217.4	2.849.3	5.402.2	224.6	3.0	999.8	—	—	2.420.2	18.837.7

出港汽船積荷噸數國籍別 (九月中)

汽 船 國 籍 別	日 本 內 地			臺 灣	朝 鮮	大 連	上 海	芝 罘	天 津	其 支 那 他 港	香 港	浦 鹽	マニラ	其 外 他 國	計
	大 神	阪 戶	門 司 其 他												
日 本 國 籍	4.125.4	10.877.2	52.1	1.435.6	2.560.7	11.041.4	389.9	123.6	55.5	—	—	—	—	—	30.661.4
英 米 支 那	—	—	—	—	—	793.2	—	—	—	—	—	—	—	—	793.2
合 計	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	315.5	—	315.5
合 計	4.125.4	10.877.2	52.1	1.435.6	2.560.7	11.839.6	389.9	123.6	55.5	—	—	—	315.5	—	31.775.1

青島出入船舶旅客表 (九月中)

○印ハ帆船出入旅客ヲ示ス

入 港 上 陸 ノ 部

國	籍	男女別	大連	大神 阪戸	門其ノ 司他	朝 鮮	上 海	芝 罘	威海衛	マニラ	海 州	山東省	江蘇省	福建省	關東州	計
日 本	人	男女	351 103	222 138	394 243	11 6	40 12	2 —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	1,020 502
支 那	人	" "	4,532 372	15 3	12 —	— —	414 26	374 46	— —	— —	98 14	326 14	18 4	6 —	17 —	5,812 479
英 國	人	" "	3 3	1 4	— —	— —	23 32	2 2	2 1	— —	— —	— —	— —	— —	— —	31 42
米 國	人	" "	1 —	1 1	— —	— —	4 1	2 1	— —	2 1	— —	— —	— —	— —	— —	10 4
露 國	人	" "	5 9	— —	— —	— —	2 5	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	7 14
佛 國	人	" "	— —	— —	— —	— —	2 3	1 —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	3 3
智 利	人	" "	— —	— —	— —	— —	3 —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	3 —
ブラジル	人	" "	— —	— —	— —	— —	2 —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	2 —
丁 抹	人	" "	— —	— —	— —	— —	1 1	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	1 1
和 蘭	人	" "	— —	— —	— —	— —	1 3	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	1 3
伊 太 利	人	" "	— —	— —	— —	— —	1 1	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	1 1
合 計	計	" "	4,892 487	239 146	406 243	11 6	490 87	381 49	2 1	2 1	98 14	326 14	18 4	6 —	17 —	6,888 1,052
計			5,379	385	649	17	577	430	3	3	112	340	22	6	17	7,940

出 港 乘 船 ノ 部

國	籍	男女別	大連	大神 阪戸	門其ノ 司他	朝 鮮	上 海	芝 罘	天 津	臺 灣	海 州	山東省	江蘇省	福建省	關東州	計
日 本	人	男女	553 139	136 86	352 197	22 8	26 8	3 —	7 —	1 —	3 —	— —	— —	— —	— —	1,103 438
支 那	人	" "	2,613 247	8 —	31 —	57 8	141 46	39 8	— —	— —	253 15	272 9	13 —	5 1	19 —	3,451 334

國	籍	男女別	大連	大神 阪戶	門其ノ 司他	朝鮮	上海	芝罘	天津	臺灣	海州	山東省	江蘇省	福建省	關東州	計
英	國	人{ 男女	7 5	1 —	— —	— —	60 48	1 1	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	69 54
米	國	人{ "	2 1	— —	— —	— —	28 25	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	30 26
露	國	人{ "	11 13	— —	— —	— —	4 9	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	15 22
佛	國	人{ "	— —	1 —	— —	— —	15 17	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	16 17
瑞	典	人{ "	1 1	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	1 1
伊	大 利	人{ "	— —	— —	— —	— —	4 3	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	4 3
セ	ルビヤ	人{ "	— —	— —	— —	— —	1 1	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	1 1
丁	抹	人{ "	— —	— —	— —	— —	1 —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	1 —
葡	萄 牙	人{ "	1 —	— —	— —	— —	— 1	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	1 1
ブ	ラシル	人{ "	— —	— —	— —	— —	3 3	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	3 3
諾	威	人{ "	— —	— —	— —	— —	1 —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	1 —
合	計	{ "	3,188 406	146 86	383 197	79 16	284 161	43 9	7 —	1 —	256 15	272 9	13 —	5 1	19 —	4,696 900
	計		3,594	232	580	95	445	52	7	1	271	281	13	6	19	5,596

◎青島大港兩驛乘降客人員 (九月中)

驛 別	一 等 車		二 等 車		三 等 車		計	
	乘	降	乘	降	乘	降	乘	降
青 島 驛	202	128	535	563	15,541	20,679	16,328	21,370
大 港 驛	25	16	171	32	6,938	867	7,134	915
合 計	227	144	756	595	22,479	21,546	23,462	22,285
一月以降累計	1,496	1,475	6,582	6,604	202,802	227,164	210,880	235,638

◎ 青島屠獸場屠殺數 (九月中)

日	次	牛	犢	豚	羊	山羊	計
一	日	20	—	19	1	—	40
二	日	14	—	21	1	—	36
三	日	1	—	21	1	—	38
四	日	14	—	21	1	—	36
五	日	70	—	37	3	—	110
七	日	7	—	22	2	—	31
八	日	12	—	18	1	—	31
九	日	14	—	22	2	—	38
十	日	233	—	21	2	—	256
十	一 日	68	—	22	2	—	92
十	二 日	18	—	40	4	—	62
十	四 日	11	1	22	2	—	36
十	五 日	192	—	20	1	—	213
十	六 日	73	—	38	2	—	113
十	八 日	188	—	21	2	—	211
十	九 日	212	—	37	11	—	260
二	十 一 日	54	—	23	1	—	78
二	十 二 日	228	—	40	2	—	270
二	十 四 日	193	—	26	2	—	221
二	十 五 日	13	1	24	1	—	39
二	十 六 日	119	—	43	3	1	166
二	十 八 日	234	1	22	1	—	258
二	十 九 日	219	—	27	2	—	248
三	十 日	91	—	39	2	1	133
合	計	2,313	3	646	52	2	3,016
一	月以降累計	24,109	24	7,338	602	4	32,077